



# クレデンシャルとサブスクリプション Setup and administration

NetApp  
April 26, 2024

# 目次

クレデンシャルとサブスクリプション .....	1
AWS .....	1
Azure .....	15
Google Cloud .....	29
BlueXPアカウントに関連付けられているNSSクレデンシャルを管理します .....	35
BlueXPログインに関連付けられているクレデンシャルを管理します .....	40

# クレデンシャルとサブスクリプション

## AWS

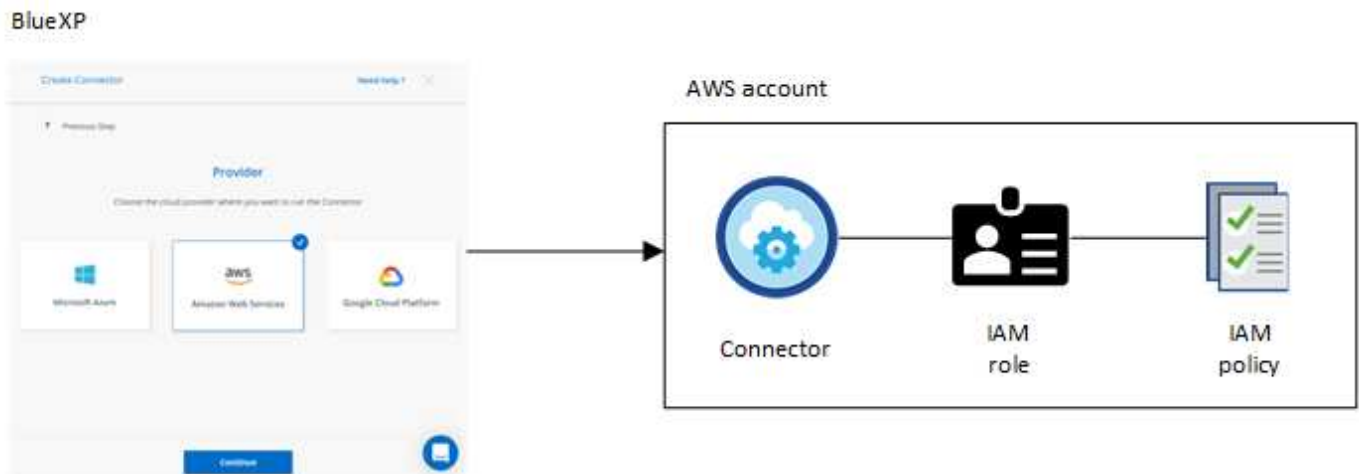
### AWS のクレデンシャルと権限について説明します

BlueXPがAWSクレデンシャルを使用してユーザに代わって操作を実行する方法と、それらのクレデンシャルがマーケットプレイスのサブスクリプションにどのように関連付けられているかをご確認くださいこれらの詳細を理解しておく、BlueXPで1つ以上のAWSアカウントのクレデンシャルを管理する際に役立ちます。たとえば、AWSクレデンシャルをBlueXPに追加するタイミングを把握できます。

### AWS の初期クレデンシャル

BlueXPからコネクタを展開する場合は、IAMロールのARNまたはIAMユーザのアクセスキーを指定する必要があります。使用する認証方式に、Connector インスタンスを AWS に導入するための必要な権限がある必要があります。必要な権限は、に表示されます ["AWS 用のコネクタ導入ポリシー"](#)。

BlueXPがAWSでコネクタインスタンスを起動すると、インスタンスのIAMロールとインスタンスプロファイルが作成されます。また、ポリシーを適用して、指定した AWS アカウント内のリソースやプロセスを管理する権限を Connector に提供します。 ["BlueXPがどのように権限を使用しているかを確認します"](#)。



Cloud Volumes ONTAPの新しい作業環境を作成すると、BlueXPでは次のAWSクレデンシャルがデフォルトで選択されます。

Details & Credentials			
Instance Profile	Account ID	QA Subscription	Edit Credentials
Credentials		Marketplace Subscription	

ページの[Switch Account]オプションを示すスクリーンショット。"]

すべての Cloud Volumes ONTAP システムは、初期の AWS クレデンシャルを使用して導入することも、クレ

デンシタルを追加することもできます。

## 追加の **AWS** クレデンシタル

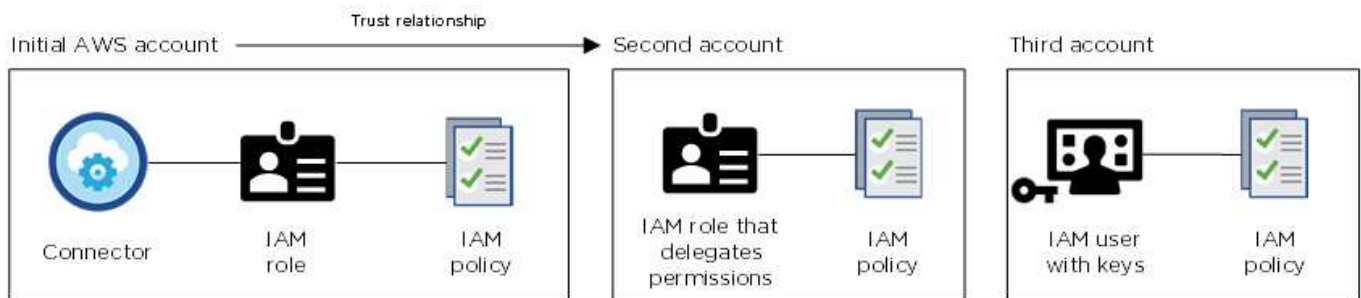
AWSクレデンシタルを追加するには、次の2つの方法があります。

- 既存のコネクタにAWSクレデンシタルを追加できます
- AWSクレデンシタルはBlueXPに直接追加できます

詳細については、以下のセクションを参照してください。

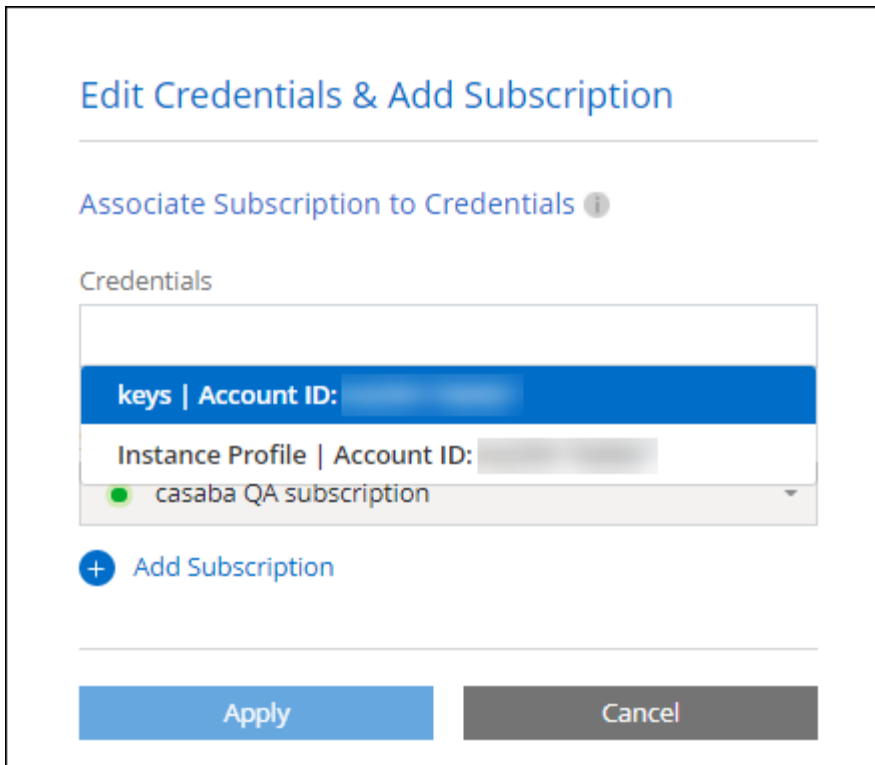
### **AWS** クレデンシタルを既存のコネクタに追加する

BlueXPを追加のAWSアカウントで使用する場合は、IAMユーザのAWSキー、または信頼されたアカウントのロールのARNを指定できます。次の図は、2つの追加アカウントを示しています。1つは、信頼されたアカウントのIAMロールを介してアクセス許可を提供し、もう1つはIAMユーザのAWSキーを使用してアクセス許可を提供します。



その後、IAMロールのAmazon Resource Name (ARN) またはIAMユーザのAWSキーを指定して、アカウントクレデンシタルをBlueXPに追加します。

たとえば、新しいCloud Volumes ONTAP 作業環境を作成するときにクレデンシタルを切り替えることができます。



ページで[Switch Account]を選択した後、クラウドプロバイダアカウントを選択するスクリーンショット。"]

"既存のコネクタにAWSクレデンシャルを追加する方法を説明します。"

**AWSクレデンシャルをBlueXPに直接追加します**

BlueXPに新しいAWS資格情報を追加すると'FSX for ONTAP 作業環境の作成と管理'またはコネクタの作成に必要な権限が提供されます

- "BlueXP for Amazon FSx for ONTAP にAWSクレデンシャルを追加する方法をご紹介します"
- "コネクタを作成するためにAWSクレデンシャルをBlueXPに追加する方法について説明します"

クレデンシャルとマーケットプレイスのサブスクリプション

Cloud Volumes ONTAPの料金を時間単位（PAYGO）または年間契約で支払い、その他のBlueXPサービスを使用できるようにするには、Connectorに追加するクレデンシャルをAWS Marketplaceサブスクリプションに関連付ける必要があります。

"AWSサブスクリプションに関連付ける方法について説明します"。

AWSクレデンシャルとマーケットプレイスサブスクリプションについては、次の点に注意してください。

- 1つのAWSクレデンシャルに関連付けることができるAWS Marketplaceサブスクリプションは1つだけです。
- 既存のMarketplaceサブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えることが可能

よく寄せられる質問

次の質問は、クレデンシャルとサブスクリプションに関するものです。

**AWS** クレデンシャルを安全にローテーションするにはどうすればよいですか。

前述のセクションで説明したように、BlueXPではいくつかの方法でAWSクレデンシャルを指定できます。コネクタインスタンスに関連付けられたIAMロール、信頼されたアカウントでIAMロールを想定するか、AWSアクセスキーを指定します。

最初の2つのオプションでは、BlueXPはAWS Security Token Serviceを使用して、絶えず回転する一時的な資格情報を取得します。このプロセスはベストプラクティスであり、自動的に実行され、セキュリティが確保されています。

BlueXPにAWSアクセスキーを提供する場合は、BlueXPで定期的にキーを更新して、キーを回転させる必要があります。これは完全に手動で行います。

**AWS MarketplaceのCloud Volumes ONTAP**作業環境向けサブスクリプションを変更できますか。

はい、できます。一連のクレデンシャルに関連付けられているAWS Marketplaceサブスクリプションを変更すると、既存および新規のすべてのCloud Volumes ONTAP作業環境に新しいサブスクリプション料金が請求されます。

["AWSサブスクリプションに関連付ける方法について説明します"](#)。

マーケットプレースのサブスクリプションごとに、複数の**AWS**クレデンシャルを追加できますか。

同じAWSアカウントに属するすべてのAWSクレデンシャルは、同じAWS Marketplaceサブスクリプションに関連付けられます。

異なるAWSアカウントに属する複数のAWSクレデンシャルがある場合は、それらのクレデンシャルを同じAWS Marketplaceサブスクリプションまたは異なるサブスクリプションに関連付けることができます。

既存の**Cloud Volumes ONTAP**作業環境を別の**AWS**アカウントに移動できますか。

いいえ、Cloud Volumes ONTAP作業環境に関連付けられているAWSリソースを別のAWSアカウントに移動することはできません。

マーケットプレースの導入とオンプレミスの導入でクレデンシャルはどのように機能しますか？

上記の項では、BlueXPのコネクタの推奨される展開方法について説明します。AWS MarketplaceからAWSにコネクタを導入したり、独自のLinuxホストにコネクタソフトウェアを手動でインストールしたりすることもできます。

Marketplace を使用する場合も、アクセス許可は同じ方法で提供されます。IAM ロールを手動で作成して設定し、追加のアカウントに権限を付与するだけで済みます。

オンプレミス環境の場合、BlueXPシステム用のIAMロールを設定することはできませんが、AWSアクセスキーを使用して権限を指定することはできます。

権限の設定方法については、次のページを参照してください。

- 標準モード
  - ["AWS Marketplace環境の権限を設定する"](#)
  - ["オンプレミス環境の権限を設定する"](#)
- ["制限モードの権限を設定します"](#)

- ["プライベートモードの権限を設定します"](#)

## BlueXPのAWSクレデンシャルとマーケットプレイスサブスクリプションを管理

AWSクレデンシャルを追加および管理して、BlueXPがAWSアカウントでクラウドリソースを導入および管理するために必要な権限を持つようにします。複数のAWS Marketplaceサブスクリプションを管理している場合は、[Credentials]ページで各サブスクリプションを異なるAWSクレデンシャルに割り当てることができます。

### 概要

AWSクレデンシャルを既存のコネクタに追加するか、またはBlueXPに直接追加できます。

- 既存のコネクタにAWSクレデンシャルを追加する

AWSクレデンシャルを既存のコネクタに追加すると、パブリッククラウド環境内のリソースとプロセスの管理に必要な権限が付与されます。 [AWS クレデンシャルをコネクタに追加する方法について説明します](#)。

- BlueXPに、コネクタを作成するためのAWSクレデンシャルを追加します

新しいAWSクレデンシャルをBlueXPに追加すると、コネクタの作成に必要な権限がBlueXPに付与されます。 [AWSクレデンシャルをBlueXPに追加する方法について説明します](#)。

- BlueXP for FSX for ONTAP にAWSクレデンシャルを追加します

BlueXPに新しいAWS資格情報を追加すると、BlueXPにONTAP 用FSXの作成と管理に必要な権限が与えられます ["FSX for ONTAP のアクセス許可を設定する方法について説明します"](#)

### クレデンシャルのローテーション方法

BlueXPでは、いくつかの方法でAWSクレデンシャルを提供できます。コネクタインスタンスに関連付けられたIAMロールで、信頼されたアカウントでIAMロールを割り当てるか、AWSアクセスキーを指定します。 ["AWS のクレデンシャルと権限に関する詳細情報"](#)。

最初の2つのオプションでは、BlueXPはAWS Security Token Serviceを使用して、絶えず回転する一時的な資格情報を取得します。このプロセスは自動でセキュアであるため、ベストプラクティスです。

BlueXPにAWSアクセスキーを提供する場合は、BlueXPで定期的にキーを更新して、キーを回転させる必要があります。これは完全に手動で行います。

### コネクタにクレデンシャルを追加してください

AWSクレデンシャルをコネクタに追加して、パブリッククラウド環境内のリソースとプロセスの管理に必要な権限をコネクタに付与します。別のアカウントの IAM ロールの ARN を指定するか、AWS アクセスキーを指定できます。

BlueXPを使い始めたばかりの方は、 ["BlueXPでのAWSのクレデンシャルと権限の使用法をご紹介します"](#)。

## 権限を付与します

ConnectorにAWSクレデンシャルを追加する前に、必要な権限を指定する必要があります。この権限を持つBlueXPは、そのAWSアカウント内のリソースとプロセスを管理できるようになります。アクセス許可の指定方法は、BlueXPに信頼されたアカウントまたはAWSキーの役割のARNを提供するかどうかによって異なります。



BlueXPからコネクタを導入した場合、BlueXPはコネクタを導入したアカウントのAWS資格情報を自動的に追加しました。この初期アカウントは、AWS MarketplaceからConnectorを導入した場合や、Connectorソフトウェアを既存のシステムに手動でインストールした場合は追加されません。 ["AWS のクレデンシャルと権限について説明します"](#)。

- 選択肢 \*
- [別のアカウントで IAM ロールを想定して権限を付与します](#)
- [AWS キーを指定して権限を付与します](#)

## 別のアカウントで IAM ロールを想定して権限を付与します

IAM ロールを使用して、コネクタインスタンスを導入したソース AWS アカウントと他の AWS アカウントの間に信頼関係を設定できます。次に、信頼できるアカウントのIAMロールのARNをBlueXPに提供します。

コネクタがオンプレミスにインストールされている場合は、この認証方法は使用できません。AWSキーを使用する必要があります。

### 手順

1. コネクタに権限を付与するターゲットアカウントのIAMコンソールに移動します。
2. [Access Management]で、\*[Roles]>[Create Role]\*を選択し、手順に従ってロールを作成します。

必ず次の手順を実行してください。

- 信頼されるエンティティのタイプ \* で、 \* AWS アカウント \* を選択します。
- 別の AWS アカウント \* を選択し、コネクタインスタンスが存在するアカウントの ID を入力します。
- の内容をコピーして貼り付けることで、必要なポリシーを作成します ["コネクタのIAMポリシー"](#)。

3. 後でBlueXPに貼り付けることができるように、IAMロールの役割ARNをコピーします。

### 結果

これで、アカウントに必要な権限が付与されました。 [これで、クレデンシャルをコネクタに追加できるようになりました。](#)

## AWS キーを指定して権限を付与します

IAMユーザにAWSキーを提供する場合は、そのユーザに必要な権限を付与する必要があります。BlueXP IAM ポリシーでは、BlueXPで使用するAWSのアクションとリソースを定義しています。

コネクタがオンプレミスにインストールされている場合は、この認証方法を使用する必要があります。IAMロールは使用できません。

### 手順



1. IAMコンソールで、の内容をコピーして貼り付けることでポリシーを作成する ["コネクタのIAMポリシー"](#)。

["AWS のドキュメント：「Creating IAM Policies」"](#)

2. IAMロールまたはIAMユーザにポリシーを関連付けます。
  - ["AWS のドキュメント：「Creating IAM Roles」"](#)
  - ["AWS のドキュメント：「Adding and Removing IAM Policies」"](#)

## 結果

これで、アカウントに必要な権限が付与されました。 [これで、クレデンシャルをコネクタに追加できるようになりました。](#)

クレデンシャルを追加します

必要な権限を AWS アカウントに付与したら、そのアカウントのクレデンシャルを既存のコネクタに追加できます。これにより、同じコネクタを使用してアカウントの Cloud Volumes ONTAP システムを起動できます。

作業を開始する前に

作成したクレデンシャルをクラウドプロバイダで使用できるようになるまでに数分かかることがあります。数分待ってから、BlueXPに資格情報を追加します。

## 手順

1. BlueXPで正しいコネクタが選択されていることを確認します
2. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。



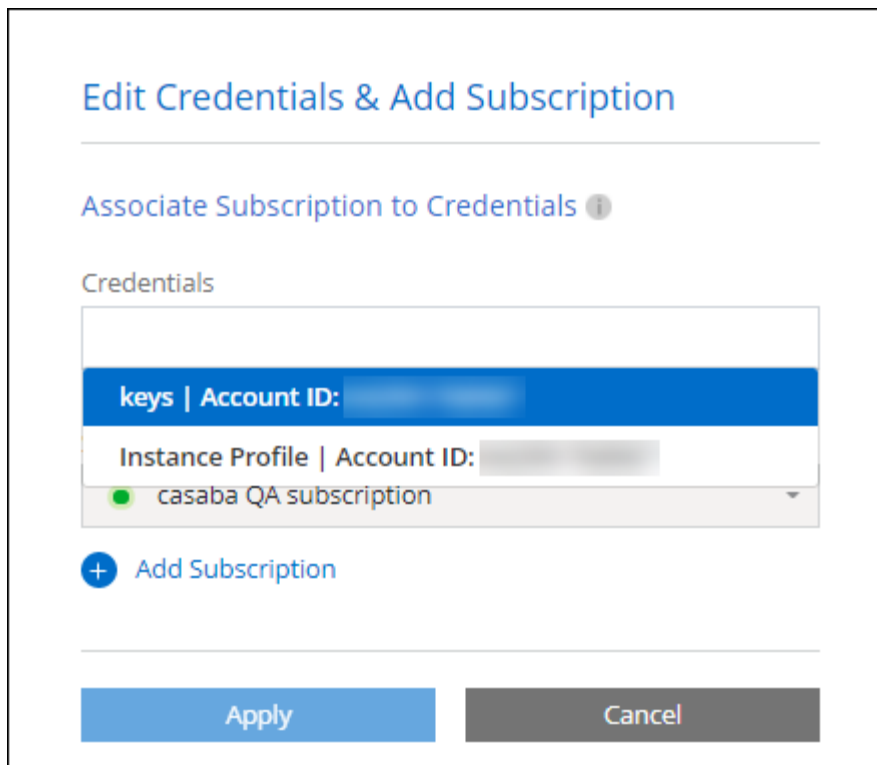
3. ページで[クレデンシャルの追加]\*を選択し、ウィザードの手順に従います。
  - a. \* 資格情報の場所 \* : 「\* Amazon Web Services > Connector \*」を選択します。
  - b. \* クレデンシャルの定義 \* : 信頼された IAM ロールの ARN (Amazon リソース名) を指定するか、AWS アクセスキーとシークレットキーを入力します。
  - c. \* Marketplace サブスクリプション \*: 今すぐ登録するか、既存のサブスクリプションを選択して、Marketplace サブスクリプションをこれらの資格情報に関連付けます。

BlueXPサービスの料金を時間単位 (PAYGO) または年間契約で支払うには、AWSクレデンシャルをAWS Marketplaceサブスクリプションに関連付ける必要があります。

- d. 確認: 新しいクレデンシャルの詳細を確認し、\*[追加]\*を選択します。

## 結果

新しい作業環境を作成するときに、[詳細と資格情報] ページから別の資格情報セットに切り替えることができるようになりました。



ページで[Switch Account]を選択した後、クラウドプロバイダアカウントを選択するスクリーンショット。"]

コネクタを作成するために、**BlueXP**に資格情報を追加します

BlueXPに、Connectorの作成に必要な権限をBlueXPに与えるIAMロールのARNを提供して、AWSクレデンシヤルをBlueXPに追加します。これらのクレデンシヤルは、新しいコネクタを作成するときに選択できます。

**IAM** ロールを設定します

BlueXP SaaSレイヤからロールを引き継ぐためのIAMロールを設定します。

手順

1. ターゲットアカウントの IAM コンソールに移動します。
2. [Access Management]で、\*[Roles]>[Create Role]\*を選択し、手順に従ってロールを作成します。

必ず次の手順を実行してください。

- 信頼されるエンティティのタイプ \* で、 \* AWS アカウント \* を選択します。
- 別のAWSアカウント\*を選択して、BlueXP SaaSのID 952013314444を入力します
- コネクタの作成に必要な権限を含むポリシーを作成します。
  - "ONTAP の FSX に必要な権限を表示します"
  - "Connector展開ポリシーを表示します"

3. 次の手順で、IAMロールのロールARNをコピーしてBlueXPに貼り付けることができます。

結果

IAM ロールに必要な権限が割り当てられます。 これで、BlueXPに追加できます。

クレデンシャルを追加します

IAMロールに必要な権限を付与したら、BlueXPにARNロールを追加します。

作業を開始する前に

IAM ロールを作成したばかりの場合は、使用できるようになるまで数分かかることがあります。数分待ってから、BlueXPに資格情報を追加します。

手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。



2. ページで[クレデンシャルの追加]\*を選択し、ウィザードの手順に従います。
  - a. 資格情報の場所：「\* Amazon Web Services > BlueXP \*」を選択します。
  - b. \* クレデンシャルの定義 \*：IAM ロールの ARN（Amazon リソース名）を指定します。
  - c. 確認：新しいクレデンシャルの詳細を確認し、\*[追加]\*を選択します。

結果

新しいコネクタを作成するときにクレデンシャルを使用できるようになりました。

**BlueXP for Amazon FSx for ONTAP** にクレデンシャルを追加

詳細については、を参照してください ["Amazon FSx for ONTAP 向けBlueXPドキュメント"](#)

**AWS** サブスクリプションを関連付ける

AWSのクレデンシャルをBlueXPに追加したら、AWS Marketplaceサブスクリプションをそれらのクレデンシャルに関連付けることができます。このサブスクリプションでは、Cloud Volumes ONTAP の料金を時間単位（PAYGO）または年単位の契約で支払い、その他のBlueXPサービスを利用できます。

BlueXPに資格情報を追加した後、AWS Marketplaceサブスクリプションを関連付けるシナリオは2つあります。

- BlueXPに最初に資格情報を追加したときに、サブスクリプションを関連付けませんでした。
- AWSクレデンシャルに関連付けられているAWS Marketplaceサブスクリプションを変更する。

現行のMarketplaceサブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えると、既存のCloud Volumes ONTAP作業環境とすべての新規作業環境のMarketplaceサブスクリプションが変更されます。

作業を開始する前に

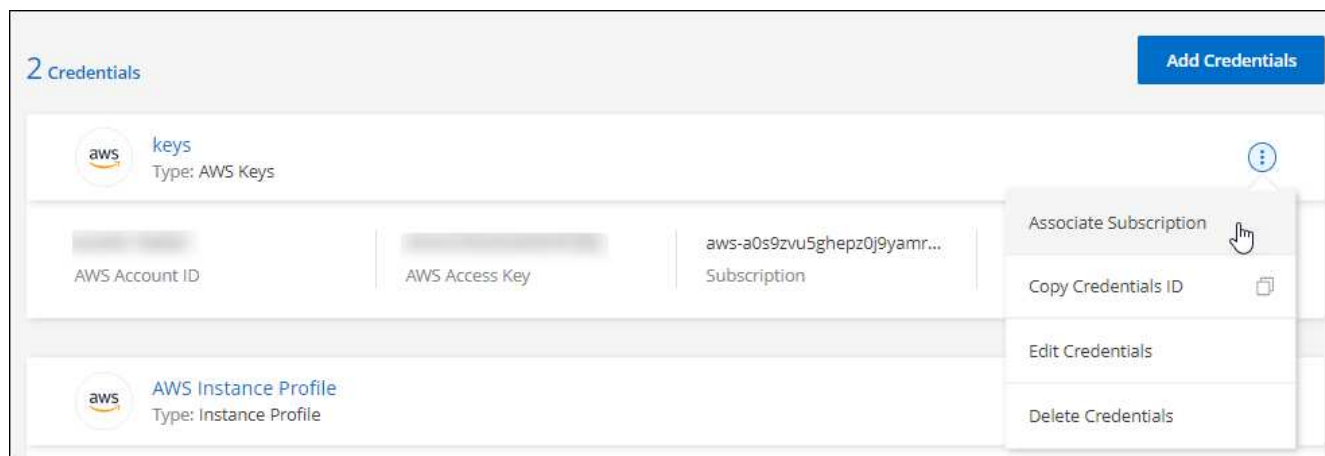
BlueXP設定を変更する前にコネクタを作成する必要があります。 ["コネクタの作成方法を説明します"](#)。

手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。

2. 一連の資格情報のアクションメニューを選択し、\*サブスクリプションの関連付け\*を選択します。

コネクタに関連付けられているクレデンシャルを選択する必要があります。BlueXPに関連付けられているクレデンシャルにMarketplaceサブスクリプションを関連付けることはできません。



3. クレデンシャルを既存のサブスクリプションに関連付けるには、ダウリストからサブスクリプションを選択し、\*[関連付け]\*を選択します。
4. クレデンシャルを新しいサブスクリプションに関連付けるには、\*[Add Subscription]>[Continue]\*を選択し、AWS Marketplaceで次の手順を実行します。
  - a. [購入オプションの表示]\*を選択します。
  - b. [サブスクライブ]\*を選択します。
  - c. [アカウントを設定する]\*を選択します。

BlueXPのWebサイトにリダイレクトされます

- d. [サブスクリプションの割り当て\*]ページで、次の操作を行います。
  - このサブスクリプションを関連付けるBlueXPアカウントを選択します。
  - [既存のサブスクリプションを置き換える\*]フィールドで、1つのアカウントの既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに自動的に置き換えるかどうかを選択します。

BlueXPは、アカウントのすべての資格情報の既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに置き換えます。一連の資格情報がサブスクリプションに関連付けられていない場合、この新しいサブスクリプションはこれらの資格情報に関連付けられません。

他のすべてのアカウントについては、以下の手順を繰り返して、手動で契約を関連付ける必要があります。

- [保存 ( Save ) ] を選択します。

次のビデオは、AWS Marketplaceからサブスクライブする手順を示しています。

[AWS MarketplaceでBlueXPにサブスクライブ](#)

## 既存のサブスクリプションをアカウントに関連付ける

AWS MarketplaceからBlueXPにサブスクライブする際の最後の手順は、BlueXP WebサイトからBlueXPアカウントにサブスクリプションを関連付けることです。この手順を完了していない場合は、BlueXPアカウントでサブスクリプションを使用することはできません。

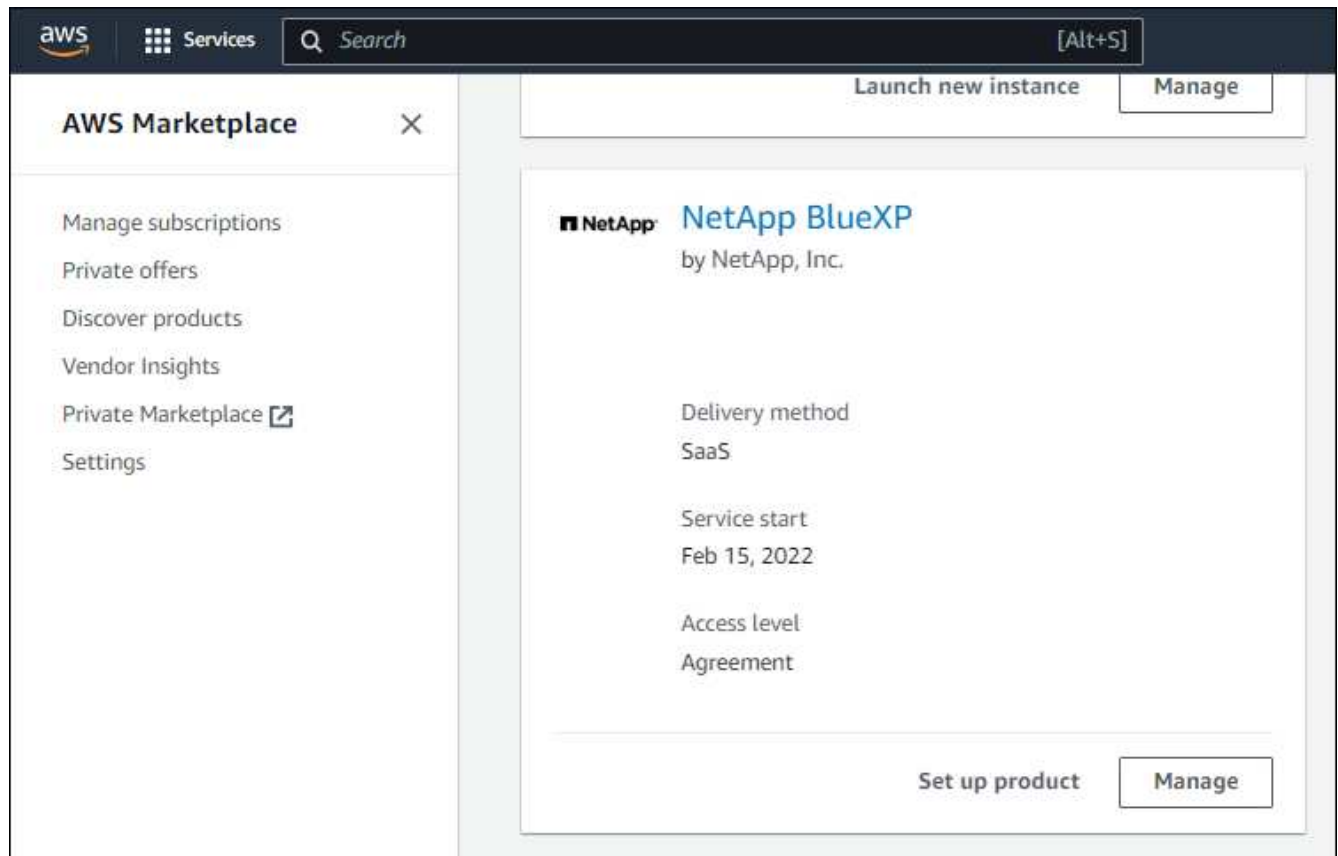
AWS MarketplaceからBlueXPのサブスクリプションを登録していて、アカウントにサブスクリプションを関連付ける手順をまだ間に合わなかった場合は、次の手順を実行してください。

### 手順

1. BlueXPのデジタルウォレットにアクセスして、サブスクリプションとBlueXPアカウントが関連付けられていないことを確認します。
  - a. BlueXPナビゲーションメニューから、\* Governance > Digital Wallet \*を選択します。
  - b. [サブスクリプション]を選択します。
  - c. BlueXPサブスクリプションが表示されないことを確認します。

現在表示しているアカウントに関連付けられている月額プランのみが表示されます。サブスクリプションが表示されない場合は、次の手順に進みます。

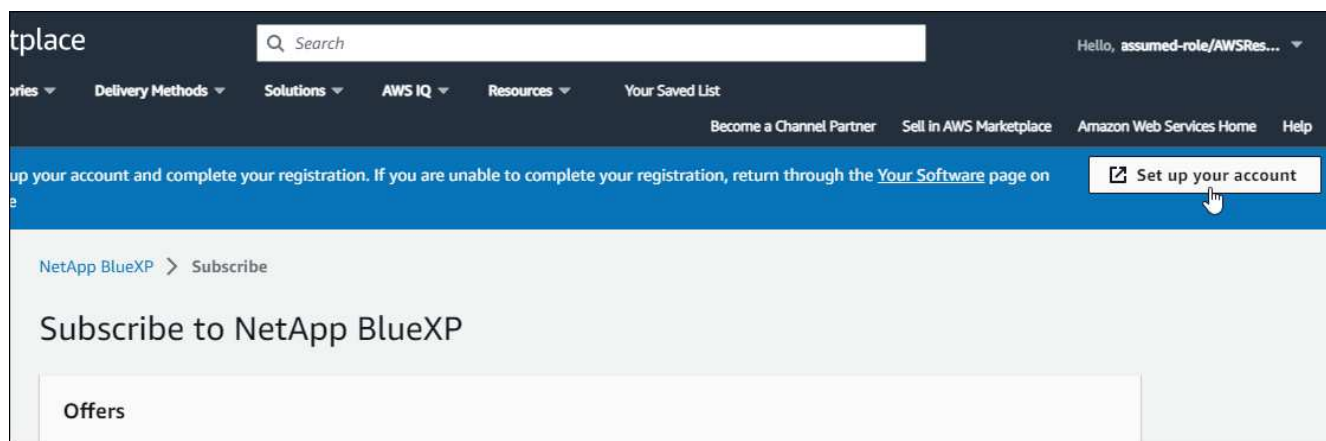
2. AWSコンソールにログインし、\*[AWS Marketplace Subscriptions]\*に移動します。
3. NetApp BlueXPサブスクリプションを見つけましょう。



4. [製品の設定]\*を選択します。

サブスクリプションオファーページが新しいブラウザタブまたはウィンドウにロードされます。

5. [アカウントを設定する]\*を選択します。



オプションを示しています。"]

netapp.comの\* Subscription Assignment \*ページが新しいブラウザタブまたはウィンドウにロードされます。

最初にBlueXPにログインするように求められる場合があります。

6. [サブスクリプションの割り当て\*]ページで、次の操作を行います。

- このサブスクリプションに関連付けるBlueXPアカウントを選択します。
- [既存のサブスクリプションを置き換える\*]フィールドで、1つのアカウントの既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに自動的に置き換えるかどうかを選択します。

BlueXPは、アカウントのすべての資格情報の既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに置き換えます。一連の資格情報がサブスクリプションに関連付けられていない場合、この新しいサブスクリプションはこれらの資格情報に関連付けられません。

他のすべてのアカウントについては、以下の手順を繰り返して、手動で契約に関連付ける必要があります。

Subscription Assignment ×

✓ Your subscription to BlueXP / Cloud Volumes ONTAP from the AWS Marketplace was created successfully.

Subscription name i

PayAsYouGo

Select the NetApp accounts that you'd like to associate this subscription with. i

You can automatically replace the existing subscription for one account with this new subscription.

NetApp account	Replace existing subscription
<input checked="" type="checkbox"/> cloudTiering_undefined	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> CS-HhewH	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> benAccount	<input checked="" type="checkbox"/>

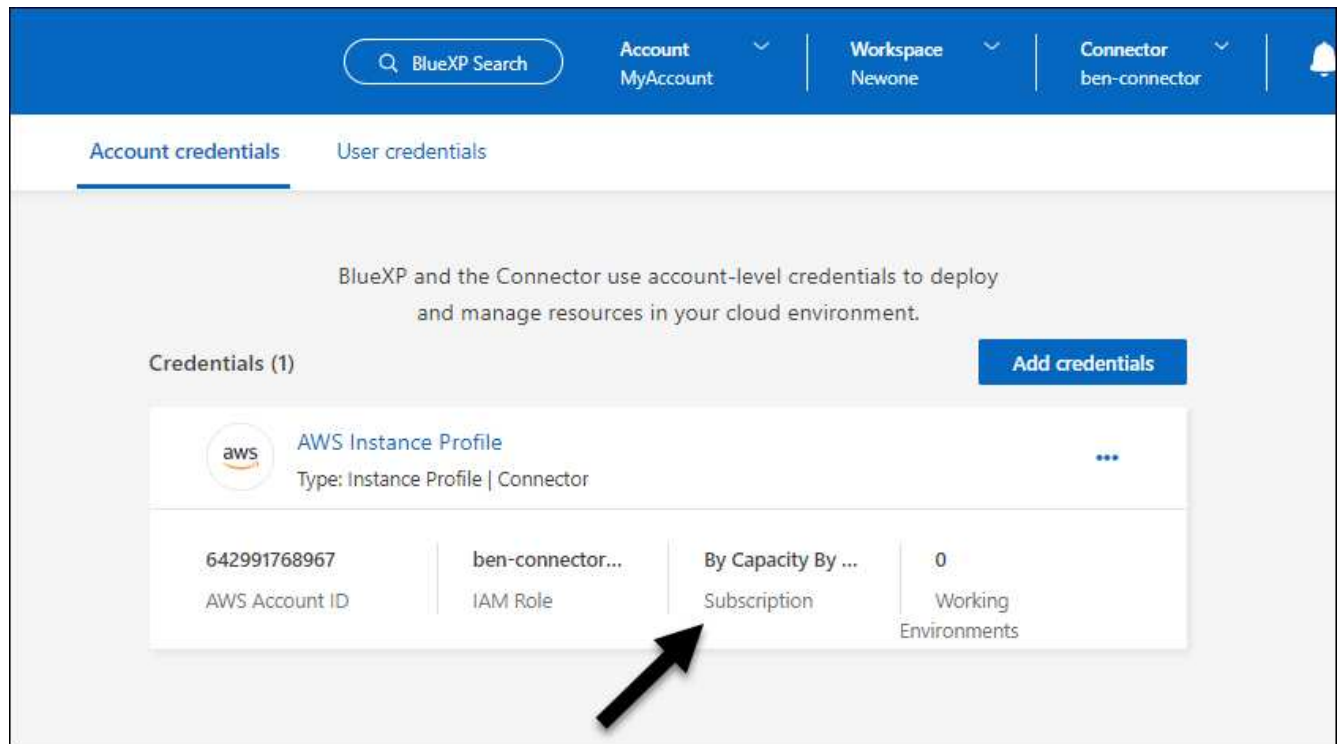
Save

ページのスクリーンショット。このサブスクリプションに関連付けるBlueXPアカウントを選択できます。"]

7. BlueXPのデジタルウォレットに移動して、サブスクリプションがBlueXPアカウントに関連付けられていることを確認します。
  - a. BlueXPナビゲーションメニューから、\* Governance > Digital Wallet \*を選択します。
  - b. [サブスクリプション]を選択します。
  - c. BlueXPサブスクリプションが表示されることを確認します。
8. サブスクリプションがAWSクレデンシャルに関連付けられていることを確認します。
  - a. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。
  - b. [Account credentials]\*ページで、サブスクリプションがAWSクレデンシャルに関連付けられていることを確認します。

次に例を示します。





ページのスクリーンショット。AWSクレデンシャルには、クレデンシャルに関連付けられているサブスクリプションの名前を示すサブスクリプションフィールドが含まれています。"]

## クレデンシャルを編集する

BlueXPでAWSクレデンシャルを編集するには、アカウントタイプ（AWSキーまたは権限）を変更するか、名前を編集するか、クレデンシャル自体（キーまたはロールARN）を更新します。



コネクタインスタンスに関連付けられているインスタンスプロファイルのクレデンシャルは編集できません。

### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。
2. ページで、一連のクレデンシャルの操作メニューを選択し、[クレデンシャルの編集]\*を選択します。
3. 必要な変更を行い、\*適用\*を選択します。

## クレデンシャルを削除

一連の資格情報が不要になった場合は、BlueXPから削除できます。削除できるのは、作業環境に関連付けられていないクレデンシャルのみです。



コネクタインスタンスに関連付けられているインスタンスプロファイルのクレデンシャルは削除できません。

### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。
2. ページで、一連のクレデンシャルの操作メニューを選択し、[クレデンシャルの削除]\*を選択します。



3. [削除]\*を選択して確定します。

## Azure

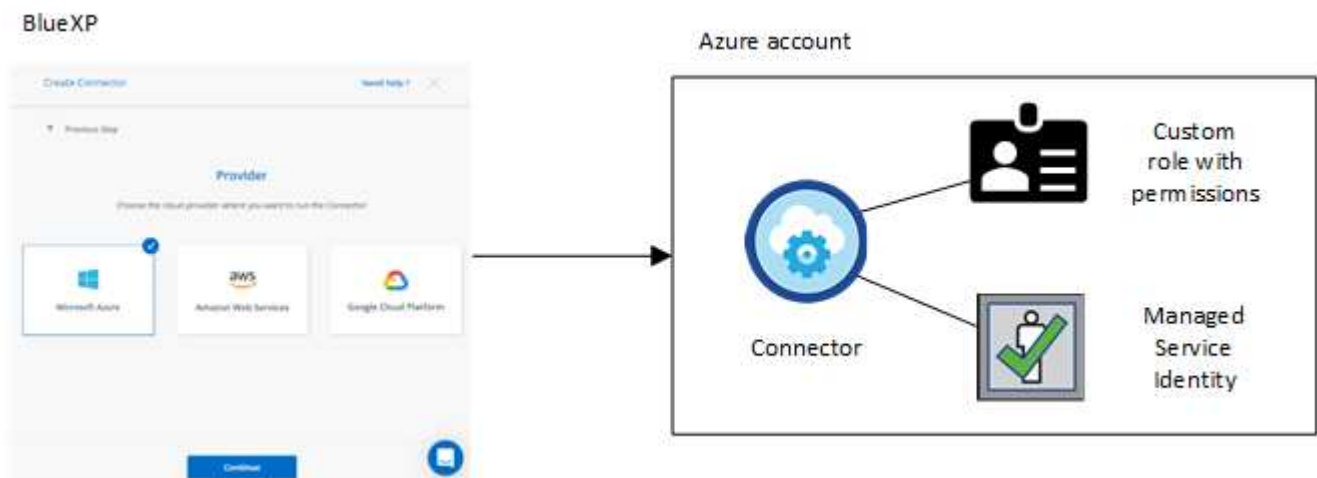
### Azure のクレデンシャルと権限について説明します

BlueXPがAzureクレデンシャルを使用してユーザに代わってアクションを実行する方法と、それらのクレデンシャルがマーケットプレイスのサブスクリプションにどのように関連付けられているかをご確認くださいこれらの詳細を理解しておく、1つ以上のAzureサブスクリプションのクレデンシャルを管理する際に役立ちます。たとえば、AzureクレデンシャルをBlueXPに追加するタイミングを確認できます。

#### Azure の初期クレデンシャル

BlueXPからConnectorを導入する場合は、Connector仮想マシンを導入する権限を持つAzureアカウントまたはサービスプリンシパルを使用する必要があります。必要な権限は、に表示されます ["Azure の Connector 導入ポリシー"](#)。

BlueXPがAzureにConnector仮想マシンを導入すると、が有効になります ["システムによって割り当てられた管理 ID"](#) 仮想マシンで、カスタムロールを作成して仮想マシンに割り当てます。このロールは、そのAzureサブスクリプション内でリソースとプロセスを管理するために必要な権限をBlueXPに提供します。 ["BlueXPがどのように権限を使用しているかを確認します"](#)。



Cloud Volumes ONTAPの新しい作業環境を作成すると、BlueXPでは次のAzureクレデンシャルがデフォルトで選択されます。

Details & Credentials			
Managed Service Ide...	OCCM QA1	No subscription is associated	<a href="#">Edit Credentials</a>
Credential Name	Azure Subscription	Marketplace Subscription	

ページの[Switch Account]オプションを示すスクリーンショット。"]

すべての Cloud Volumes ONTAP システムは、初期の Azure クレデンシャルを使用して導入することも、クレデンシャルを追加することもできます。

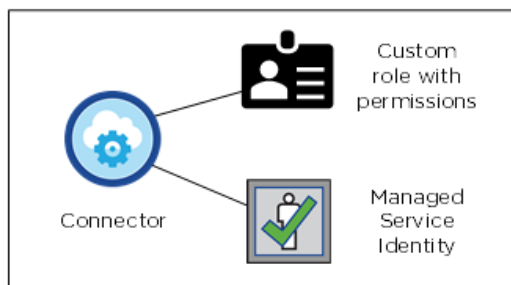
マネージド ID 向けの **Azure** サブスクリプションが追加されました

コネクタVMに割り当てられたシステム割り当ての管理IDは、コネクタを起動したサブスクリプションに関連付けられています。別の Azure サブスクリプションを選択する場合は、が必要です **"管理対象 ID をこれらのサブスクリプションに関連付けます"**。

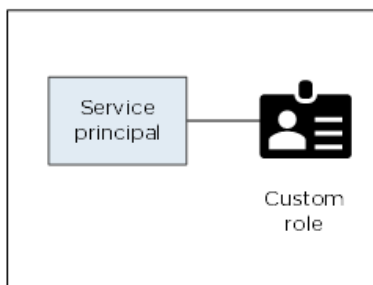
## Azure の追加クレデンシャル

BlueXPで別のAzureクレデンシャルを使用する場合は、で必要な権限を付与する必要があります **"Microsoft Entra IDでのサービスプリンシパルの作成と設定"** を Azure アカウントごとに用意します。次の図は、2つの追加アカウントを示しています。各アカウントには、権限を提供するサービスプリンシパルとカスタムロールが設定されています。

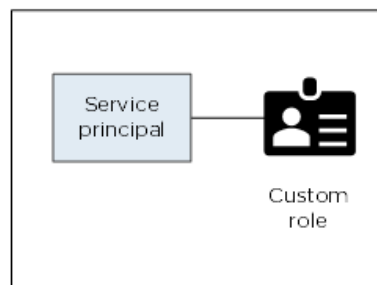
Initial Azure account



Second account



Third account



そのあとで **"アカウントの資格情報をBlueXPに追加します"** AD サービスプリンシパルの詳細を指定します。

たとえば、新しいCloud Volumes ONTAP 作業環境を作成するときにクレデンシャルを切り替えることができます。

The screenshot shows a web interface titled 'Edit Account & Add Subscription'. Below the title is a section labeled 'Credentials'. It contains a text input field with a cursor, a dropdown menu showing 'cloud-manager-app | Application ID: 57c42424-88a0-480a...', a blue button labeled 'Managed Service Identity', and another dropdown menu showing 'OCCM QA1 (Default)'.

ページで[Switch Account]を選択した後、クラウドプロバイダアカウントを選択するスクリーンショット。"]

## クレデンシャルとマーケットプレイスのサブスクリプション

Cloud Volumes ONTAPの料金を時間単位（PAYGO）または年間契約で支払い、その他のBlueXPサービスを使用できるようにするには、Connectorに追加するクレデンシャルをAzure Marketplaceサブスクリプションに関連付ける必要があります。

["Azureサブスクリプションを関連付ける方法について説明します"](#)。

Azureクレデンシャルとマーケットプレイスサブスクリプションについては、次の点に注意してください。

- 一連のAzureクレデンシャルに関連付けることができるAzure Marketplaceサブスクリプションは1つだけです。
- 既存のMarketplaceサブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えることが可能

## よく寄せられる質問

次の質問は、クレデンシャルとサブスクリプションに関するものです。

**Azure MarketplaceのCloud Volumes ONTAP作業環境向けサブスクリプションを変更できますか。**

はい、できます。一連のAzureクレデンシャルに関連付けられているAzure Marketplaceサブスクリプションを変更すると、既存および新規のすべてのCloud Volumes ONTAP作業環境が新しいサブスクリプションに対して課金されます。

["Azureサブスクリプションを関連付ける方法について説明します"](#)。

マーケットプレイスのサブスクリプションが異なる複数の**Azure**クレデンシャルを追加できますか。

同じAzureサブスクリプションに属するすべてのAzureクレデンシャルは、同じAzure Marketplaceサブスクリプションに関連付けられます。

異なるAzureサブスクリプションに属する複数のAzureクレデンシャルがある場合、それらのクレデンシャルを同じAzure Marketplaceサブスクリプションまたは異なるマーケットプレイスサブスクリプションに関連付けることができます。

既存の**Cloud Volumes ONTAP**作業環境を別の**Azure**サブスクリプションに移行できますか。

いいえ、Cloud Volumes ONTAP作業環境に関連付けられているAzureリソースを別のAzureサブスクリプションに移動することはできません。

マーケットプレイスの導入とオンプレミスの導入でクレデンシャルはどのように機能しますか？

上記の項では、BlueXPのコネクタの推奨される展開方法について説明します。Azure MarketplaceからAzureにコネクタを導入したり、独自のLinuxホストにコネクタソフトウェアをインストールしたりすることもできます。

Marketplaceを使用する場合は、コネクタVMとシステムによって割り当てられた管理IDにカスタムロールを割り当てることで権限を付与することも、Microsoft Entraサービスプリンシパルを使用することもできます。

オンプレミス展開の場合、コネクタの管理IDを設定することはできませんが、サービスプリンシパルを使用して権限を提供することはできます。

権限の設定方法については、次のページを参照してください。

- 標準モード
  - "Azure Marketplace環境の権限を設定する"
  - "オンプレミス環境の権限を設定する"
- "制限モードの権限を設定します"
- "プライベートモードの権限を設定します"

## BlueXPのAzureクレデンシャルとマーケットプレイスサブスクリプションを管理

Azureクレデンシャルを追加および管理して、Azureサブスクリプションのクラウドリソースの導入と管理に必要な権限をBlueXPに付与する。複数の Azure Marketplace サブスクリプションを管理する場合は、それぞれのサブスクリプションを、クレデンシャルページから別々の Azure クレデンシャルに割り当てることができます。

複数の Azure クレデンシャルを使用する場合や、複数の Azure Marketplace サブスクリプションを Cloud Volumes ONTAP に使用する場合、このページの手順に従います。

### 概要

Azureサブスクリプションと資格情報をBlueXPに追加するには、2つの方法があります。

1. 追加の Azure サブスクリプションを Azure 管理 ID に関連付けます。
2. 別のAzureクレデンシャルを使用してCloud Volumes ONTAP を導入する場合は、サービスプリンシパルを使用してAzure権限を付与し、そのクレデンシャルをBlueXPに追加します。

### 追加のAzureサブスクリプションを管理対象IDに関連付けます

BlueXPを使用すると、Cloud Volumes ONTAP を導入するAzureクレデンシャルとAzureサブスクリプションを選択できます。管理対象に別の Azure サブスクリプションを選択することはできません。関連付けられない限り、アイデンティティプロファイルを作成します "管理された ID" それらの登録と。

### このタスクについて

管理対象 ID はです "最初の Azure アカウント" BlueXPからコネクタを展開すると、コネクタを展開すると、BlueXPはBlueXP Operatorロールを作成し、Connector仮想マシンに割り当てました。

### 手順

1. Azure ポータルにログインします。
2. [サブスクリプション] サービスを開き、Cloud Volumes ONTAP を展開するサブスクリプションを選択します。
3. [Access control (IAM)]\*を選択します。
  - a. >[ロール割り当ての追加]\*を選択し、権限を追加します。
    - BlueXP Operator \*ロールを選択します。



BlueXP Operatorは、コネクタポリシーで指定されているデフォルト名です。ロールに別の名前を選択した場合は、代わりにその名前を選択します。

- 仮想マシン \* へのアクセスを割り当てます。
- Connector 仮想マシンが作成されたサブスクリプションを選択します。
- Connector 仮想マシンを選択します。
- [ 保存 ( Save ) ] を選択します。

4. 追加のサブスクリプションについても、この手順を繰り返します。

## 結果

新しい作業環境を作成するときに、管理対象 ID プロファイルに対して複数の Azure サブスクリプションから選択できるようになりました。

## Azure クレデンシャルを BlueXP に追加します

BlueXP から Connector を展開すると、BlueXP では、必要な権限を持つシステム割り当ての管理対象 ID を仮想マシンで使用できるようになります。Cloud Volumes ONTAP 用の新しい作業環境を作成すると、デフォルトで Azure クレデンシャルが選択されます。



既存のシステムに Connector ソフトウェアを手動でインストールした場合、初期クレデンシャルは追加されません。 ["Azure のクレデンシャルと権限について説明します"](#)。

\_different\_azure クレデンシャルを使用して Cloud Volumes ONTAP を導入する場合は、各 Azure アカウントの Microsoft Entra ID でサービスプリンシパルを作成して設定し、必要な権限を付与する必要があります。その後、新しい資格情報を BlueXP に追加できます。

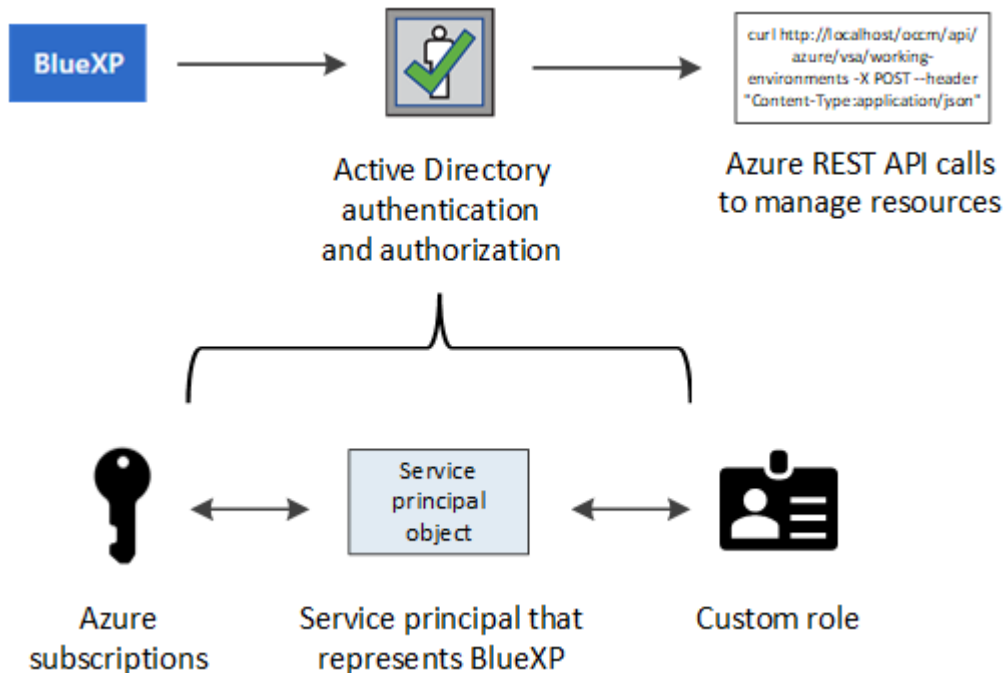
## サービスプリンシパルを使用して Azure 権限を付与します

BlueXP には、Azure で処理を実行するための権限が必要です。Azure アカウントに必要な権限を付与するには、Microsoft Entra ID でサービスプリンシパルを作成して設定し、BlueXP に必要な Azure クレデンシャルを取

得します。

このタスクについて

次の図は、Azureで処理を実行するための権限をBlueXPが取得する方法を示しています。1つ以上のAzureサブスクリプションに関連付けられたサービスプリンシパルオブジェクトは、Microsoft Entra IDではBlueXPを表し、必要な権限を許可するカスタムロールに割り当てられます。



手順

1. [Microsoft Entraアプリケーションの作成](#)。
2. [\[アプリケーションをロールに割り当てます\]](#)。
3. [Windows Azure Service Management API 権限を追加します](#)。
4. [アプリケーション ID とディレクトリ ID を取得します](#)。
5. [\[クライアントシークレットを作成します\]](#)。

### Microsoft Entraアプリケーションの作成

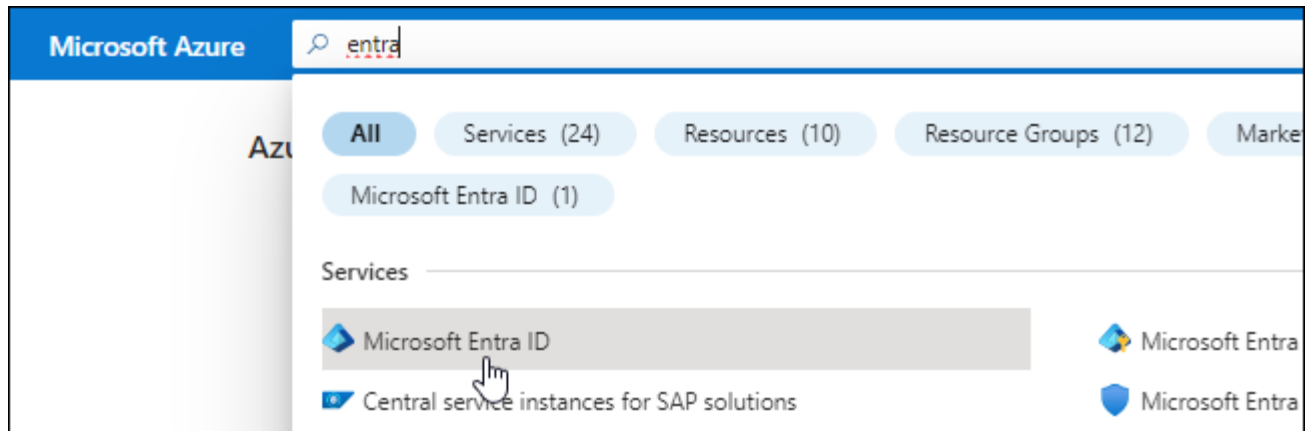
BlueXPでロールベースアクセス制御に使用できるMicrosoft Entraアプリケーションとサービスプリンシパルを作成します。

手順

1. Active Directoryアプリケーションを作成し、そのアプリケーションをロールに割り当てる権限がAzureにあることを確認します。

詳細については、を参照してください ["Microsoft Azure のドキュメント：「Required permissions」](#)

2. Azureポータルで、\* Microsoft Entra ID \*サービスを開きます。



3. メニューで\*アプリ登録\*を選択します。
4. [New registration]\*を選択します。
5. アプリケーションの詳細を指定します。
  - \* 名前 \* : アプリケーションの名前を入力します。
  - アカウントの種類: アカウントの種類を選択します(すべてのアカウントはBlueXPで動作します)。
  - \* リダイレクト URI \*: このフィールドは空白のままにできます。
6. [\*Register] を選択します。

AD アプリケーションとサービスプリンシパルを作成しておきます。

## 結果

AD アプリケーションとサービスプリンシパルを作成しておきます。

アプリケーションをロールに割り当てます

Azureで権限を持つように、サービスプリンシパルを1つ以上のAzureサブスクリプションにバインドし、カスタムの「BlueXP Operator」ロールを割り当てる必要があります。

## 手順

1. カスタムロールを作成します。

Azureカスタムロールは、Azureポータル、Azure PowerShell、Azure CLI、またはREST APIを使用して作成できます。Azure CLIを使用してロールを作成する手順を次に示します。別の方法を使用する場合は、["Azure に関するドキュメント"](#)を参照してください。

- a. の内容をコピーします ["Connectorのカスタムロールの権限"](#) JSONファイルに保存します。
- b. 割り当て可能なスコープに Azure サブスクリプション ID を追加して、JSON ファイルを変更します。

ユーザが Cloud Volumes ONTAP システムを作成する Azure サブスクリプションごとに ID を追加する必要があります。

▪ 例 \*

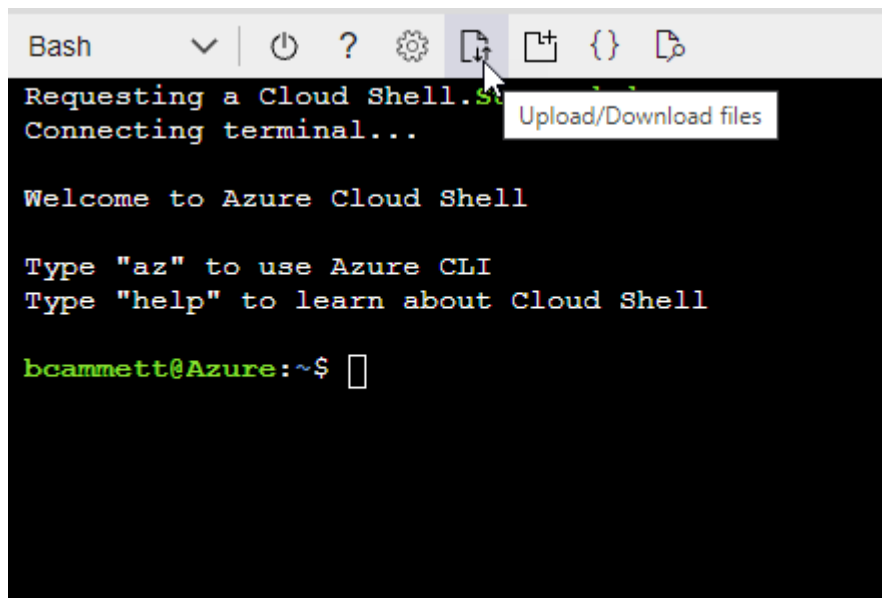


```
"AssignableScopes": [  
  "/subscriptions/d333af45-0d07-4154-943d-c25fbzzzzzzz",  
  "/subscriptions/54b91999-b3e6-4599-908e-416e0zzzzzzz",  
  "/subscriptions/398e471c-3b42-4ae7-9b59-ce5bbzzzzzzz"
```

c. JSON ファイルを使用して、Azure でカスタムロールを作成します。

次の手順は、Azure Cloud Shell で Bash を使用してロールを作成する方法を示しています。

- 開始 "Azure Cloud Shell の略" Bash 環境を選択します。
- JSON ファイルをアップロードします。



- Azure CLIを使用してカスタムロールを作成します。

```
az role definition create --role-definition Connector_Policy.json
```

これで、Connector仮想マシンに割り当てることができるBlueXP Operatorというカスタムロールが作成されました。

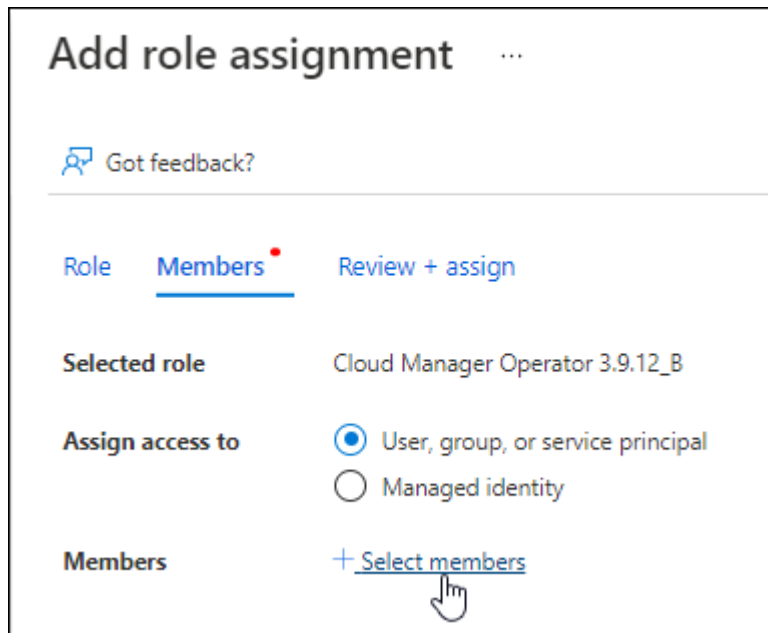
2. ロールにアプリケーションを割り当てます。

- a. Azure ポータルで、\* Subscriptions \* サービスを開きます。
- b. サブスクリプションを選択します。
- c. [アクセス制御 (IAM)] > [追加] > [ロール割り当ての追加]\*を選択します。
- d. [ロール]タブで、[BlueXP Operator]\*ロールを選択し、[次へ]\*を選択します。
- e. [\* Members\* (メンバー \*) ] タブで、次の手順を実行します。

- [\* ユーザー、グループ、またはサービスプリンシパル \*] を選択したままにします。

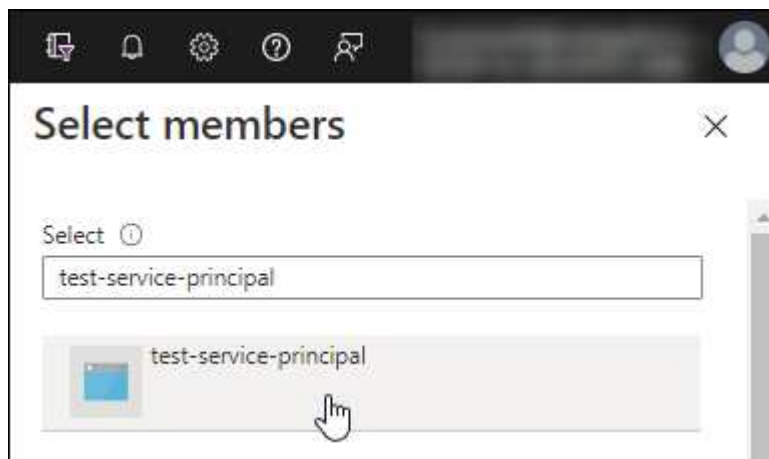


- [メンバーの選択]\*を選択します。



- アプリケーションの名前を検索します。

次に例を示します。



- アプリケーションを選択し、\*選択\*を選択します。
- 「\*次へ\*」を選択します。

- f. [Review + Assign]\*を選択します。

サービスプリンシパルに、Connector の導入に必要な Azure 権限が付与されるようになりました。

Cloud Volumes ONTAP を複数の Azure サブスクリプションから導入する場合は、サービスプリンシパルを各サブスクリプションにバインドする必要があります。BlueXPを使用すると、Cloud Volumes ONTAP の導入時に使用するサブスクリプションを選択できます。

## Windows Azure Service Management API 権限を追加します

サービスプリンシパルに「Windows Azure Service Management API」の権限が必要です。

手順

1. Microsoft Entra ID \*サービスで、\*アプリ登録\*を選択し、アプリケーションを選択します。
2. [API permissions]>[Add a permission]\*を選択します。
3. Microsoft API\* で、\* Azure Service Management \* を選択します。













### Request API permissions

Select an API

Microsoft APIs   **APIs my organization uses**   My APIs

Commonly used Microsoft APIs

**Microsoft Graph**  
Take advantage of the tremendous amount of data in Office 365, Enterprise Mobility + Security, and Windows 10. Access Azure AD, Excel, Intune, Outlook/Exchange, OneDrive, OneNote, SharePoint, Planner, and more through a single endpoint.

 <b>Azure Batch</b> Schedule large-scale parallel and HPC applications in the cloud	 <b>Azure Data Catalog</b> Programmatic access to Data Catalog resources to register, annotate and search data assets	 <b>Azure Data Explorer</b> Perform ad-hoc queries on terabytes of data to build near real-time and complex analytics solutions
 <b>Azure Data Lake</b> Access to storage and compute for big data analytic scenarios	 <b>Azure DevOps</b> Integrate with Azure DevOps and Azure DevOps server	 <b>Azure Import/Export</b> Programmatic control of import/export jobs
 <b>Azure Key Vault</b> Manage your key vaults as well as the keys, secrets, and certificates within your Key Vaults	 <b>Azure Rights Management Services</b> Allow validated users to read and write protected content	 <b>Azure Service Management</b> Programmatic access to much of the functionality available through the Azure portal
 <b>Azure Storage</b> Secure, massively scalable object and data lake storage for unstructured and semi-structured data	 <b>Customer Insights</b> Create profile and interaction models for your products	 <b>Data Export Service for Microsoft Dynamics 365</b> Export data from Microsoft Dynamics CRM organization to an external destination

4. を選択し、[Add permissions]\*を選択します。

## Request API permissions

[← All APIs](#)



Azure Service Management

<https://management.azure.com/> [Docs](#)

What type of permissions does your application require?

### Delegated permissions

Your application needs to access the API as the signed-in user.

### Application permissions

Your application runs as a background service or daemon without a signed-in user.

Select permissions

[expand all](#)

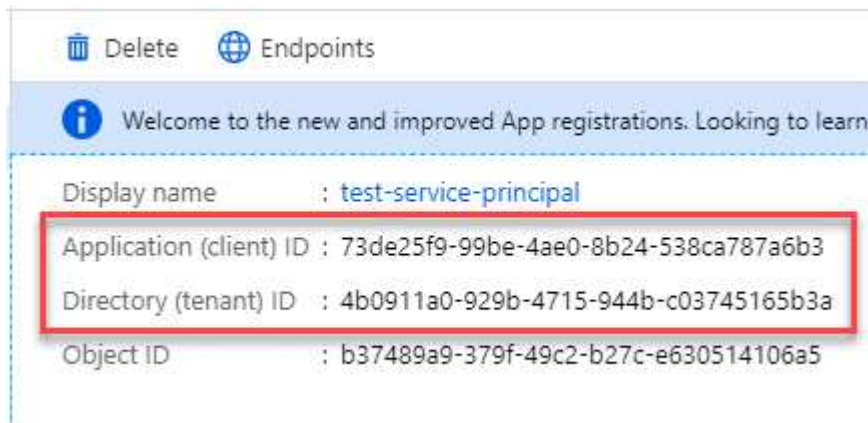
Type to search	
PERMISSION	ADMIN CONSENT REQUIRED
<input checked="" type="checkbox"/> <b>user_impersonation</b> Access Azure Service Management as organization users (preview) ⓘ	-

アプリケーション ID とディレクトリ ID を取得します

AzureアカウントをBlueXPに追加するときは、アプリケーション（クライアント）IDとディレクトリ（テナント）IDを指定する必要があります。BlueXPでは、プログラムでサインインするためにIDが使用されます。

手順

1. Microsoft Entra ID \*サービスで、\*アプリ登録\*を選択し、アプリケーションを選択します。
2. アプリケーション（クライアント）ID \* とディレクトリ（テナント）ID \* をコピーします。



AzureアカウントをBlueXPに追加するときは、アプリケーション（クライアント）IDとディレクトリ（テナント）IDを指定する必要があります。BlueXPでは、プログラムでサインインするためにIDが使用されます。

クライアントシークレットを作成します

クライアントシークレットを作成し、そのシークレットの値をBlueXPに提供して、BlueXPがMicrosoft Entra IDで認証できるようにする必要があります。

手順

1. Microsoft Entra ID \*サービスを開きます。
2. \*アプリ登録\*を選択し、アプリケーションを選択します。
3. [Certificates & secrets]>[New client secret]\*を選択します。
4. シークレットと期間の説明を入力します。
5. 「\* 追加」を選択します。
6. クライアントシークレットの値をコピーします。

#### Client secrets

A secret string that the application uses to prove its identity when requesting a token. Also can be referred to as application password.

<a href="#">+ New client secret</a>			
DESCRIPTION	EXPIRES	VALUE	Copy to clipboard
test secret	8/16/2020	*sZ1jSe2By:D*-ZRoV4NLfdAcY7:+0vA	

BlueXPでクライアントシークレットを使用してMicrosoft Entra IDで認証できるようになりました。

#### 結果

これでサービスプリンシパルが設定され、アプリケーション（クライアント）ID、ディレクトリ（テナント）ID、およびクライアントシークレットの値をコピーしました。Azureアカウントを追加する場合は、BlueXPでこの情報を入力する必要があります。

#### BlueXPにクレデンシャルを追加します

必要な権限を持つAzureアカウントを入力したら、そのアカウントのクレデンシャルをBlueXPに追加できます。この手順を完了すると、複数の Azure クレデンシャルを使用して Cloud Volumes ONTAP を起動できます。

#### 作業を開始する前に

作成したクレデンシャルをクラウドプロバイダで使用できるようになるまでに数分かかることがあります。数分待ってから、BlueXPに資格情報を追加します。

#### 作業を開始する前に

BlueXP設定を変更する前にコネクタを作成する必要があります。 ["コネクタの作成方法を説明します"](#)。

#### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。



2. [クレデンシャルの追加]\*を選択し、ウィザードの手順に従います。
  - a. \* 資格情報の場所 \* : Microsoft Azure > Connector \* を選択します。
  - b. 資格情報の定義:必要な権限を付与するMicrosoft Entraサービスプリンシパルに関する情報を入力しま

す。

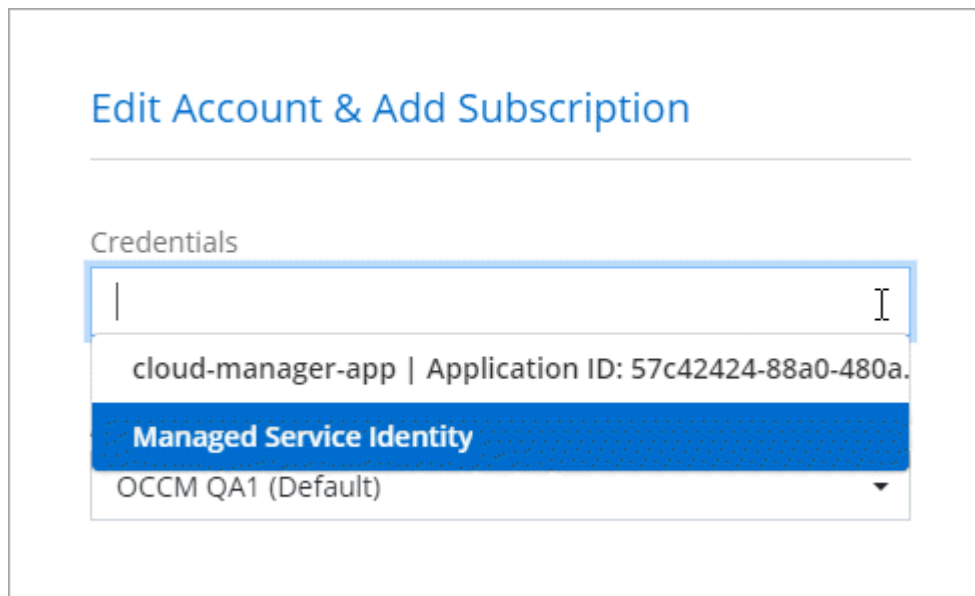
- アプリケーション（クライアント）ID
- ディレクトリ（テナント）ID
- クライアントシークレット

c. \* Marketplace サブスクリプション \*: 今すぐ登録するか、既存のサブスクリプションを選択して、Marketplace サブスクリプションをこれらの資格情報に関連付けます。

d. 確認：新しいクレデンシャルの詳細を確認し、\*[追加]\*を選択します。

## 結果

これで、から別のクレデンシャルセットに切り替えることができます [ 詳細と資格情報 ] ページ "[新しい作業環境を作成する場合](#)"



選択した後の資格情報の選択を示すスクリーンショット。"]

ページで[資格情報の編集]を選

## 既存のクレデンシャルを管理する

Marketplaceサブスクリプションを関連付け、クレデンシャルを編集し、削除することで、BlueXPに追加済みのAzureクレデンシャルを管理します。

### Azure Marketplaceサブスクリプションをクレデンシャルに関連付けます

AzureのクレデンシャルをBlueXPに追加したら、Azure Marketplaceサブスクリプションをそれらのクレデンシャルに関連付けることができます。このサブスクリプションでは、従量課金制のCloud Volumes ONTAP システムを作成したり、他のBlueXPサービスを使用したりできます。

資格情報をBlueXPに追加した後、Azure Marketplaceサブスクリプションを関連付けるシナリオは2つあります。

- BlueXPに最初に資格情報を追加したときに、サブスクリプションを関連付けませんでした。
- Azureクレデンシャルに関連付けられているAzure Marketplaceサブスクリプションを変更する。

現行のMarketplaceサブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えると、既存のCloud Volumes ONTAP作業環境とすべての新規作業環境のMarketplaceサブスクリプションが変更されます。

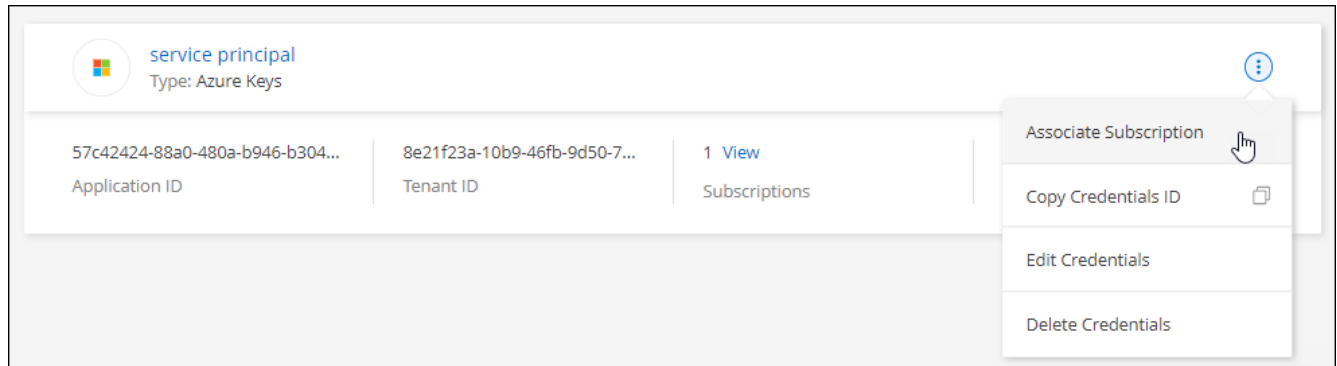
作業を開始する前に

BlueXP設定を変更する前にコネクタを作成する必要があります。 ["詳細をご確認ください"](#)。

#### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。
2. 一連の資格情報のアクションメニューを選択し、\*サブスクリプションの関連付け\*を選択します。

コネクタに関連付けられているクレデンシャルを選択する必要があります。BlueXPに関連付けられているクレデンシャルにMarketplaceサブスクリプションに関連付けることはできません。



3. クレデンシャルを既存のサブスクリプションに関連付けるには、ダウナリストからサブスクリプションを選択し、\*[関連付け]\*を選択します。
4. クレデンシャルを新しいサブスクリプションに関連付けるには、\*[サブスクリプションの追加]>[続行]\*を選択し、Azure Marketplaceで次の手順を実行します。
  - a. プロンプトが表示されたら、Azureアカウントにログインします。
  - b. [サブスクライブ]\*を選択します。
  - c. フォームに必要事項を入力し、\* Subscribe \*を選択します。
  - d. サブスクリプションプロセスが完了したら、\*[今すぐアカウントを設定する]\*を選択します。

BlueXPのWebサイトにリダイレクトされます

- e. [サブスクリプションの割り当て\*]ページで、次の操作を行います。
  - このサブスクリプションに関連付けるBlueXPアカウントを選択します。
  - [既存のサブスクリプションを置き換える\*]フィールドで、1つのアカウントの既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに自動的に置き換えるかどうかを選択します。

BlueXPは、アカウントのすべての資格情報の既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに置き換えます。一連の資格情報がサブスクリプションに関連付けられていない場合、この新しいサブスクリプションはこれらの資格情報に関連付けられません。

他のすべてのアカウントについては、以下の手順を繰り返して、手動で契約に関連付ける必要があります。

- [保存 ( Save ) ]を選択します。

次のビデオでは、Azure Marketplaceでのサブスクライブ手順を紹介しています。



### クレデンシャルを編集する

Azureサービスクレデンシャルの詳細を変更して、BlueXPでAzureクレデンシャルを編集します。たとえば、サービスプリンシパルアプリケーション用に新しいシークレットが作成された場合は、クライアントシークレットの更新が必要になることがあります。

#### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。
2. ページで、一連のクレデンシャルの操作メニューを選択し、[クレデンシャルの編集]\*を選択します。
3. 必要な変更を行い、\*適用\*を選択します。

### クレデンシャルを削除

一連の資格情報が不要になった場合は、BlueXPから削除できます。削除できるのは、作業環境に関連付けられていないクレデンシャルのみです。

#### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。
2. ページで、一連のクレデンシャルの操作メニューを選択し、[クレデンシャルの削除]\*を選択します。
3. [削除]\*を選択して確定します。

## Google Cloud

### Google Cloudのプロジェクトと権限の詳細

BlueXPでGoogle Cloudのクレデンシャルを使用してユーザに代わって操作を実行する方法と、それらのクレデンシャルがマーケットプレイスのサブスクリプションにどのように関連付けられているかをご確認くださいこれらの詳細を理解しておく、1つ以上のGoogle Cloudプロジェクトのクレデンシャルを管理する際に役立ちます。たとえば、コネクタVMに関連付けられているサービスアカウントの詳細を確認できます。

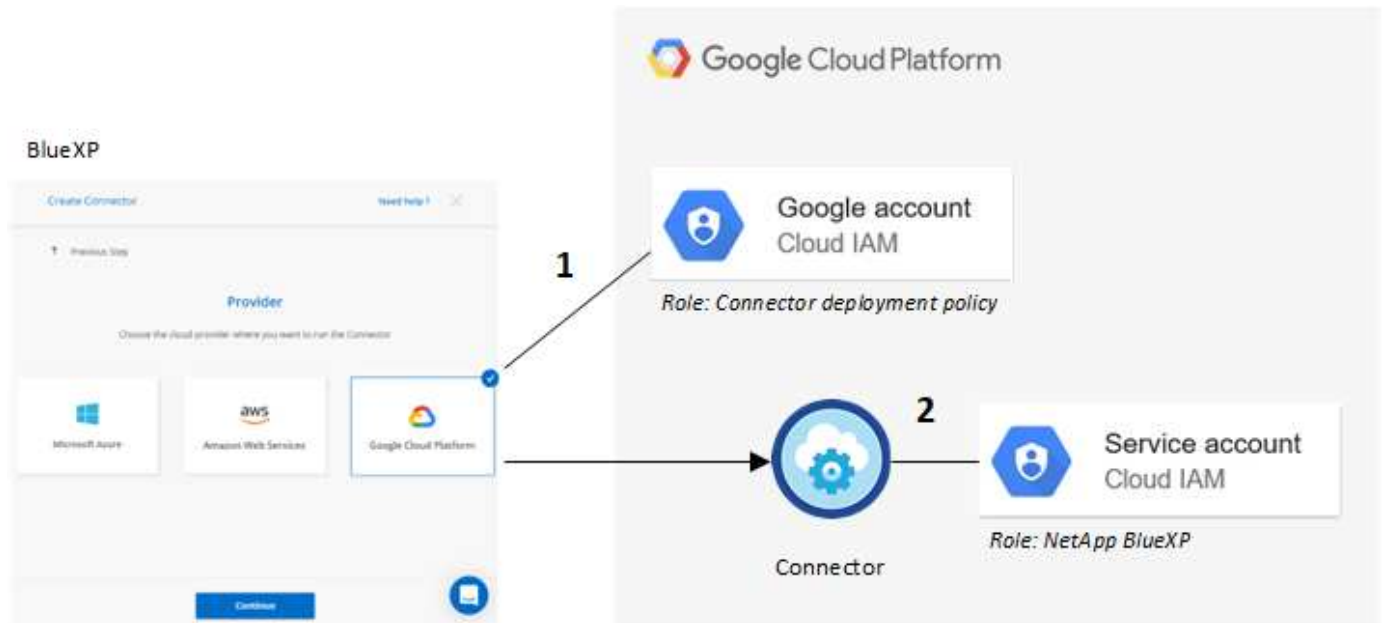
#### BlueXPのプロジェクトと権限

BlueXPを使用してGoogle Cloudプロジェクトのリソースを管理するには、まずコネクタを導入する必要があります。Connector は、オンプレミスでも別のクラウドプロバイダでも実行できません。

BlueXPからコネクタを直接展開するには、次の2セットの権限が必要です。

1. BlueXPからConnector VMインスタンスを起動する権限を持つGoogleアカウントを使用してConnectorを導入する必要があります。
2. コネクタを配置するときに、を選択するよう求められます **"サービスアカウント"** VM インスタンスの場合です。BlueXPは、サービスアカウントから、Cloud Volumes ONTAPシステムの作成と管理、BlueXPのバックアップとリカバリを使用したバックアップの管理などの権限を取得します。権限は、サービスアカウントにカスタムロールを割り当てることによって提供されます。

次の図は、上記の番号 1 と 2 で説明した権限の要件を示しています。



権限の設定方法については、次のページを参照してください。

- ["標準モードのGoogle Cloud権限を設定します"](#)
- ["制限モードの権限を設定します"](#)
- ["プライベートモードの権限を設定します"](#)

#### クレデンシャルとマーケットプレイスのサブスクリプション

Google Cloudにコネクタを導入すると、BlueXPによって、コネクタが配置されているプロジェクト内のGoogle Cloudサービスアカウント用のデフォルトクレデンシャルのセットが作成されます。Cloud Volumes ONTAPの料金を時間単位（PAYGO）で支払い、他のBlueXPサービスを使用できるように、これらのクレデンシャルをGoogle Cloud Marketplaceのサブスクリプションに関連付ける必要があります。

["Google Cloud Marketplaceのサブスクリプションに関連付ける方法を確認する"](#)。

Google Cloudクレデンシャルとマーケットプレイスのサブスクリプションについては、次の点に注意してください。

- コネクタに関連付けることができるGoogle Cloudクレデンシャルのセットは1つだけです
- クレデンシャルに関連付けることができるGoogle Cloud Marketplaceサブスクリプションは1つだけです。
- 既存のMarketplaceサブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えることが可能

#### Project for Cloud Volumes ONTAP の略

Cloud Volumes ONTAP は、コネクタと同じプロジェクトに存在することも、別のプロジェクトに存在することもできます。Cloud Volumes ONTAP を別のプロジェクトに配置するには、まずコネクタサービスアカウントとその役割をそのプロジェクトに追加する必要があります。

- ["サービスアカウントの設定方法について説明します"](#)



- "Google CloudにCloud Volumes ONTAPを導入する方法とプロジェクトを選択する方法について説明します"

## BlueXPのGoogle Cloudクレデンシャルとサブスクリプションを管理します

Connector VMインスタンスに関連付けられているGoogle Cloudクレデンシャルを管理するには、Marketplaceサブスクリプションに関連付け、サブスクリプションプロセスをトラブルシューティングします。どちらのタスクも、Marketplaceのサブスクリプションを使用してBlueXPサービスの料金を支払うことができます。

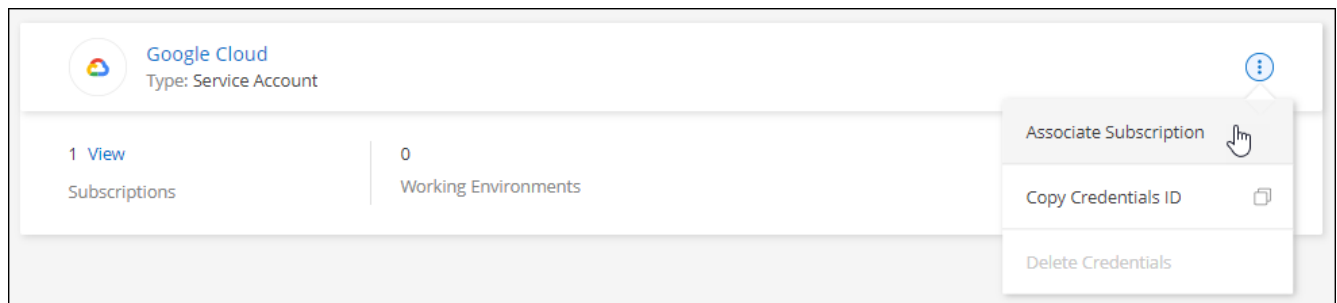
### MarketplaceサブスクリプションをGoogle Cloudのクレデンシャルに関連付ける

Google CloudでConnectorを導入すると、Connector VMインスタンスに関連付けられたデフォルトのクレデンシャルセットがBlueXPによって作成されます。これらのクレデンシャルに関連付けられているGoogle Cloud Marketplaceサブスクリプションは、いつでも変更できます。このサブスクリプションでは、従量課金制のCloud Volumes ONTAP システムを作成したり、他のBlueXPサービスを使用したりできます。

現行のMarketplaceサブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えると、既存のCloud Volumes ONTAP作業環境とすべての新規作業環境のMarketplaceサブスクリプションが変更されます。

#### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。
2. 一連の資格情報のアクションメニューを選択し、\*サブスクリプションの関連付け\*を選択します。



3. クレデンシャルを既存のサブスクリプションに関連付けるには、ダウンリストからGoogle Cloudプロジェクトとサブスクリプションを選択し、\*[関連付け]\*を選択します。

Google Cloud Project

OCCM-Dev

Subscription

GCP subscription for staging

Add Subscription

4. サブスクリプションをまだお持ちでない場合は、\*[サブスクリプションの追加]>[続行]\*を選択し、Google Cloud Marketplaceの手順に従います。



次の手順を実行する前に、Google CloudアカウントとBlueXPログインの両方に課金管理者権限があることを確認してください。

- a. にリダイレクトされたら "[Google Cloud MarketplaceのNetApp BlueXPページ](#)"をクリックし、上部のナビゲーションメニューで正しいプロジェクトが選択されていることを確認します。

Google Cloud

netapp.com

←

Product details

NetApp

NetApp BlueXP
[NetApp, Inc.](#)

BlueXP lets you build, protect, and govern your hybrid multicloud data estate.

SUBSCRIBE

OVERVIEW

PRICING

DOCUMENTATION

SUPPORT

Overview

BlueXP is NetApp's hybrid multicloud storage and data services experience that helps organizations build and operate a centrally controlled data foundation across on-premises, edge, and cloud environments.

BlueXP abstracts the complexity of architecting the underlying Google Cloud infrastructure resources making it easier to deploy and operate NetApp's storage, mobility, protection, and analysis services within your Google Cloud environment.

Additional details

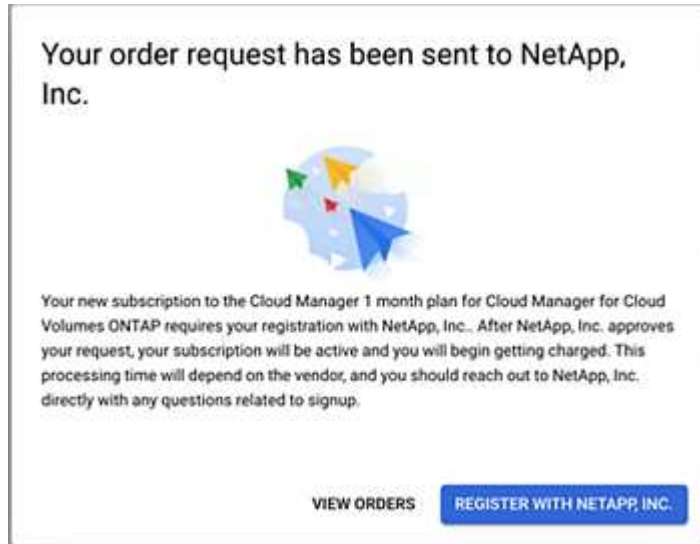
Type: [SaaS & APIs](#)  
Last updated: 12/19/22  
Category: [Analytics](#), [Developer tools](#), [Storage](#)

- b. [サブスクリライブ]\*を選択します。
- c. 適切な請求先アカウントを選択し、条件に同意します。
- d. [サブスクリライブ]\*を選択します。

転送要求がネットアップに送信されます。

- e. ポップアップダイアログボックスで、\* NetApp、Inc.への登録\*を選択します

Google CloudサブスクリプションをBlueXPアカウントにリンクするには、この手順を完了する必要があります。このページからリダイレクトされてBlueXPにサインインするまで、サブスクリプションをリンクするプロセスは完了していません。



- f. [サブスクリプションの割り当て\*]ページで次の手順を実行します。



組織の誰かが請求アカウントからNetApp BlueXPサブスクリプションにすでに登録している場合は、にリダイレクトされます ["BlueXP WebサイトのCloud Volumes ONTAP ページ"](#) 代わりに、予想外の場合は、ネットアップの営業チームにお問い合わせください。Google では、1つの Google 請求アカウントにつき 1つのサブスクリプションのみが有効です。

- このサブスクリプションを関連付けるBlueXPアカウントを選択します。
- [既存のサブスクリプションを置き換える\*]フィールドで、1つのアカウントの既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに自動的に置き換えるかどうかを選択します。

BlueXPは、アカウントのすべての資格情報の既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに置き換えます。一連の資格情報がサブスクリプションに関連付けられていない場合、この新しいサブスクリプションはこれらの資格情報に関連付けられません。

他のすべてのアカウントについては、以下の手順を繰り返して、手動で契約を関連付ける必要があります。

- [保存 (Save) ] を選択します。

次のビデオでは、Google Cloud Marketplaceから登録する手順を紹介しています。

## Google Cloud MarketplaceからBlueXPにサブスクライブ

- このプロセスが完了したら、BlueXPの[資格情報]ページに戻り、この新しいサブスクリプションを選択します。

Google Cloud Project

OCCM-Dev

Subscription

GCP subscription for staging

+

 Add Subscription


### Marketplaceのサブスクリプションプロセスのトラブルシューティング

Google Cloud MarketplaceからBlueXPにサブスクライブすると、権限が正しくない場合やBlueXP Webサイトへのリダイレクトを誤って実行しなかった場合に、断片化されることがあります。この場合は、次の手順に従ってサブスクリプションプロセスを完了してください。

#### 手順

- に移動します ["Google Cloud MarketplaceのNetApp BlueXPページ"](#) 注文の状態を確認します。ページに「プロバイダで管理」と表示されている場合は、下にスクロールして「注文の管理」を選択します。

#### Pricing

 The product was purchased on 12/9/20.

[MANAGE ORDERS](#)

- 注文に緑のチェックマークが表示されていて、これが予期しない場合は、同じ請求アカウントを使用している組織の他の人がすでに登録されている可能性があります。想定外のサポートやサブスクリプションの詳細が必要な場合は、ネットアップの営業チームにお問い合わせください。

Filter Enter property name or value										
Status	Order number	Plan	Discount	Start date ↓	Plan duration	End date	Payment Schedule	Auto-renew	Next plan	
	2eebbc...	Cloud Manager	-	10/21/21	1 month	-	Postpay	N/A	N/A	⋮

- 注文に時計と \* 保留中 \* のステータスが表示されている場合は、マーケットプレイスのページに戻り、\* プロバイダで管理 \* を選択して、上記の手順を完了します。

Filter Enter property name or value										
Status	Order number	Plan	Discount	Start date ↓	Plan duration	End date	Payment Schedule	Auto-renew	Next plan	
①	d56c66...	Cloud Manager	-	Pending	1 month	Pending	Postpay	N/A	N/A	⋮

## BlueXPアカウントに関連付けられているNSSクレデンシャルを管理します

NetApp Support SiteアカウントをBlueXPアカウントに関連付けて、Cloud Volumes ONTAPの主要なワークフローを有効にします。これらのNSSクレデンシャルはBlueXPアカウント全体に関連付けられます。



BlueXPでは、BlueXPユーザごとに1つのNSSアカウントに関連付けることもできます。 ["ユーザレベルのクレデンシャルを管理する方法について説明します"](#)。

### 概要

BlueXPで次のタスクを有効にするには、NetApp Support Site クレデンシャルを特定のBlueXPアカウントIDに関連付ける必要があります。

- お客様所有のライセンスを使用（BYOL）する場合のCloud Volumes ONTAP の導入

ライセンスキーをBlueXPでアップロードし、購入した契約期間のサブスクリプションを有効にするには、NSSアカウントを提供する必要があります。これには、期間の更新の自動更新も含まれます。

- 従量課金制のCloud Volumes ONTAP システムを登録しています

お使いのシステムのサポートを有効にし、ネットアップのテクニカルサポートリソースにアクセスするには、NSS アカウントを用意する必要があります。

- Cloud Volumes ONTAP ソフトウェアを最新リリースにアップグレードしています

これらのクレデンシャルは、特定のBlueXPアカウントIDに関連付けられます。BlueXPアカウントに属するユーザは、\*[サポート]>[NSS管理]\*からこれらのクレデンシャルにアクセスできます。

### NSS アカウントを追加します

サポートダッシュボードでは、BlueXPで使用するNetApp Support Site アカウントをBlueXPアカウントレベルで追加および管理できます。

- お客様レベルのアカウントをお持ちの場合は、1つ以上のNSSアカウントを追加することもできます。
- パートナーアカウントまたはリセラーアカウントをお持ちの場合は、1つ以上のNSSアカウントを追加することはできますが、お客様レベルのアカウントと一緒に追加することはできません。

### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[ヘルプ]アイコンを選択し、\*[サポート]\*を選択します。



メニューのスクリーンショット

ト。サポートは最初に表示されるオプションです"]

2. [NSS Management]>[Add NSS Account]\*を選択します。
3. プロンプトが表示されたら、\*続行\*を選択してMicrosoftログインページにリダイレクトします。

NetAppでは、サポートとライセンスに固有の認証サービスのIDプロバイダとしてMicrosoftエントラIDを使用します。

4. ログインページで、NetApp Support Siteの登録 E メールアドレスとパスワードを入力して認証プロセスを実行します。

これらのアクションにより、BlueXPはライセンスのダウンロード、ソフトウェアのアップグレード検証、および将来のサポート登録などの目的でNSSアカウントを使用できます。

次の点に注意してください。

- NSSアカウントは、お客様レベルのアカウントである必要があります（ゲストアカウントや一時アカウントではありません）。複数のお客様レベルのNSSアカウントを設定できます。
- NSSアカウントがパートナーレベルのアカウントの場合、作成できるNSSアカウントは1つだけです。お客様レベルのNSSアカウントを追加しようとする、パートナーレベルのアカウントが存在する場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

「別のタイプのNSSユーザーがすでに存在するため、このアカウントではNSS顧客タイプは許可されていません。」

既存のお客様レベルのNSSアカウントがあり、パートナーレベルのアカウントを追加しようとする場合も同様です。

- ログインに成功すると、ネットアップはNSSのユーザ名を保存します。

これはシステムによって生成されたIDで、電子メールにマッピングされます。[NSS Management]ページで、から電子メールを表示できます [...](#) メニュー。

- ログイン認証情報トークンを更新する必要がある場合は、の[認証情報の更新\*]オプションも使用できます [...](#) メニュー。

このオプションを使用すると、再度ログインするように求められます。これらのアカウントのトークンは90日後に期限切れになります。このことを通知する通知が投稿されます。

#### 次の手順

新しいCloud Volumes ONTAPシステムの作成時や既存のCloud Volumes ONTAPシステムの登録時にアカウントを選択できるようになりました。

- ["AWS での Cloud Volumes ONTAP の起動"](#)
- ["Azure で Cloud Volumes ONTAP を起動します"](#)
- ["Google Cloud で Cloud Volumes ONTAP を起動しています"](#)
- ["従量課金制システムの登録"](#)

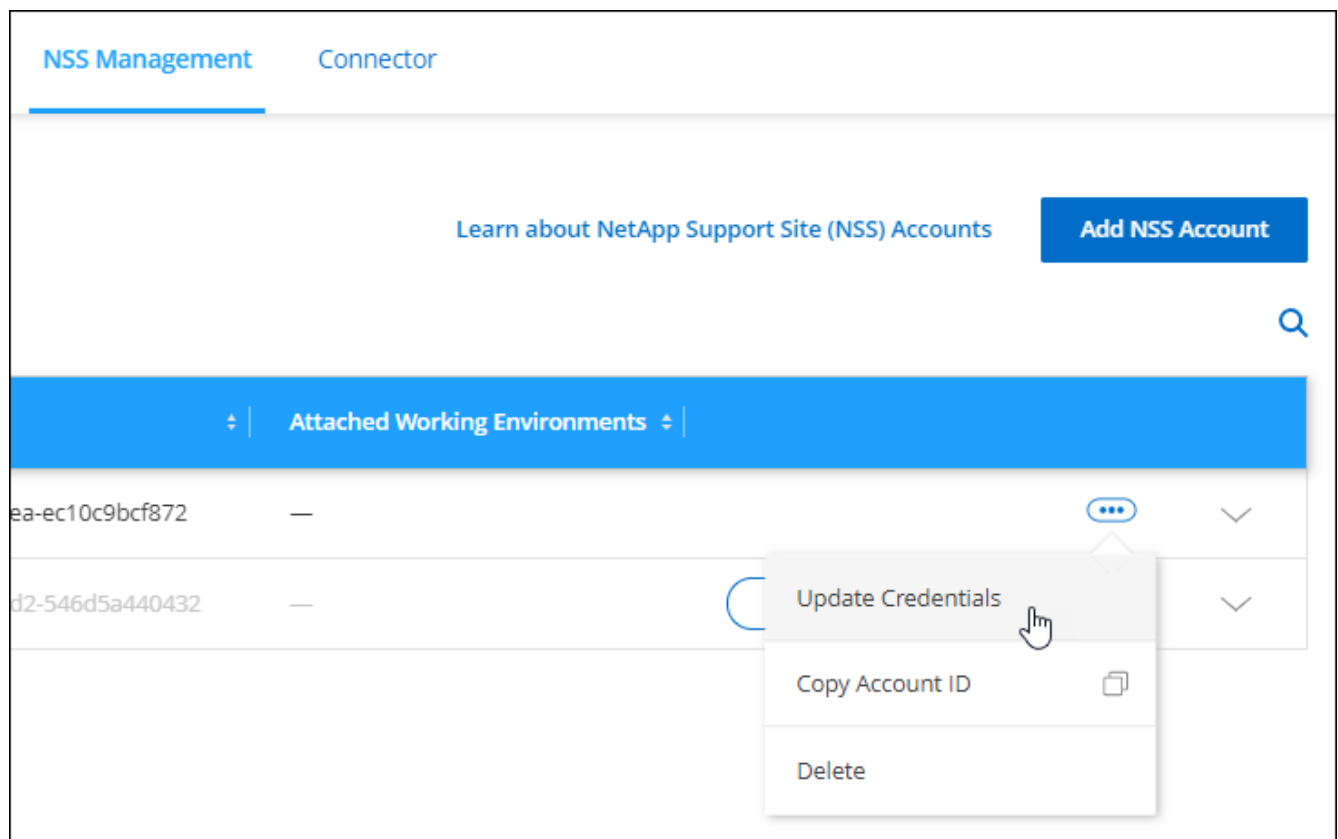
## NSS クレデンシャルを更新します

次のいずれかの場合は、BlueXPでNSSアカウントの資格情報を更新する必要があります。

- このアカウントのクレデンシャルを変更した場合
- アカウントに関連付けられた更新トークンの有効期限は3カ月です

#### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[ヘルプ]アイコンを選択し、\*[サポート]\*を選択します。
2. [NSS Management]\*を選択します。
3. 更新するNSSアカウントのを選択します ... 次に、[ 資格情報の更新 ] を選択します。





4. プロンプトが表示されたら、\*続行\*を選択してMicrosoftログインページにリダイレクトします。

NetAppでは、サポートとライセンスに固有の認証サービスのIDプロバイダとしてMicrosoftエントラIDを使用します。

5. ログインページで、NetApp Support Siteの登録 E メールアドレスとパスワードを入力して認証プロセスを実行します。

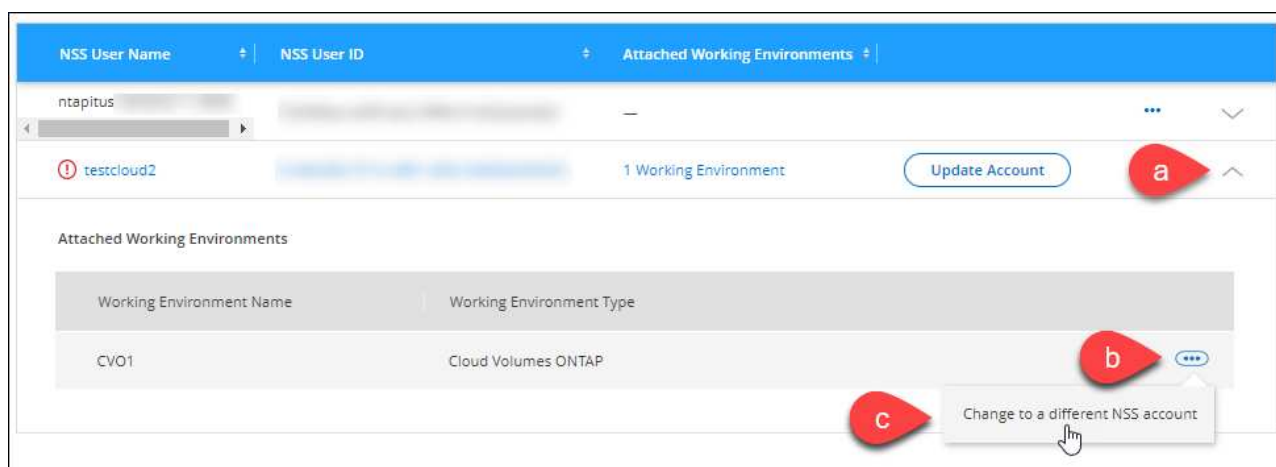
## 作業環境を別の **NSS** アカウントに接続します

組織に複数のNetApp Support Siteのアカウントがある場合、Cloud Volumes ONTAP システムに関連付けられているアカウントを変更することができます。

この機能は、ID管理にNetAppが採用したMicrosoftエントラIDを使用するように設定されたNSSアカウントでのみサポートされます。この機能を使用する前に、\* NSSアカウントの追加\*または\*アカウントの更新\*を選択する必要があります。

### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[ヘルプ]アイコンを選択し、\*[サポート]\*を選択します。
2. [NSS Management]\*を選択します。
3. NSS アカウントを変更するには、次の手順を実行します。
  - a. 作業環境が現在関連付けられているNetApp Support Siteのアカウントの行を展開します。
  - b. 関連付けを変更する作業環境で、を選択します ...
  - c. 別の NSS アカウントに変更 \* を選択します。



- d. アカウントを選択し、\*[保存]\*を選択します。

## NSS アカウントの E メールアドレスを表示します

NetApp Support Siteアカウントで認証サービスにMicrosoft Entra IDが使用されるようになったため、BlueXPに表示されるNSSユーザ名は通常、Microsoft Entraによって生成された識別子です。そのため、そのアカウントに関連付けられている E メールアドレスがすぐにわからない場合があります。しかし、BlueXPには、関連するメールアドレスを表示するオプションがあります。

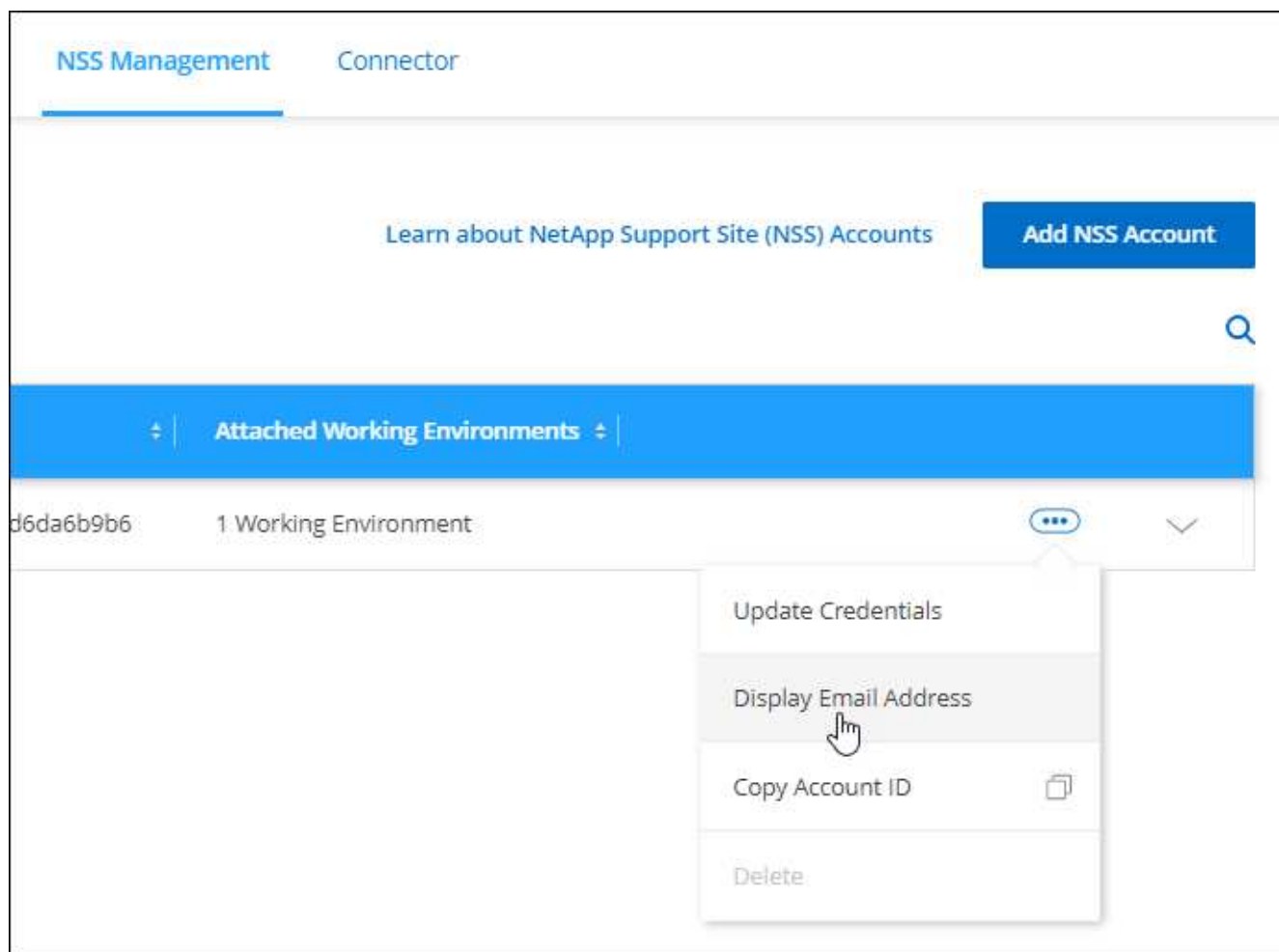




NSS管理ページに移動すると、表の各アカウントのトークンがBlueXPによって生成されます。このトークンには、関連付けられたEメールアドレスに関する情報が含まれます。その後、ページから移動するとトークンが削除されます。この情報はキャッシュされないため、プライバシーを保護できます。

#### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[ヘルプ]アイコンを選択し、\*[サポート]\*を選択します。
2. [NSS Management]\*を選択します。
3. 更新するNSSアカウントのを選択します ... 次に、[電子メールアドレスの表示 \*]を選択します。



#### 結果

NetApp Support Site ユーザー名と関連するメールアドレスが表示されます。コピーボタンを使用して、電子メールアドレスをコピーできます。

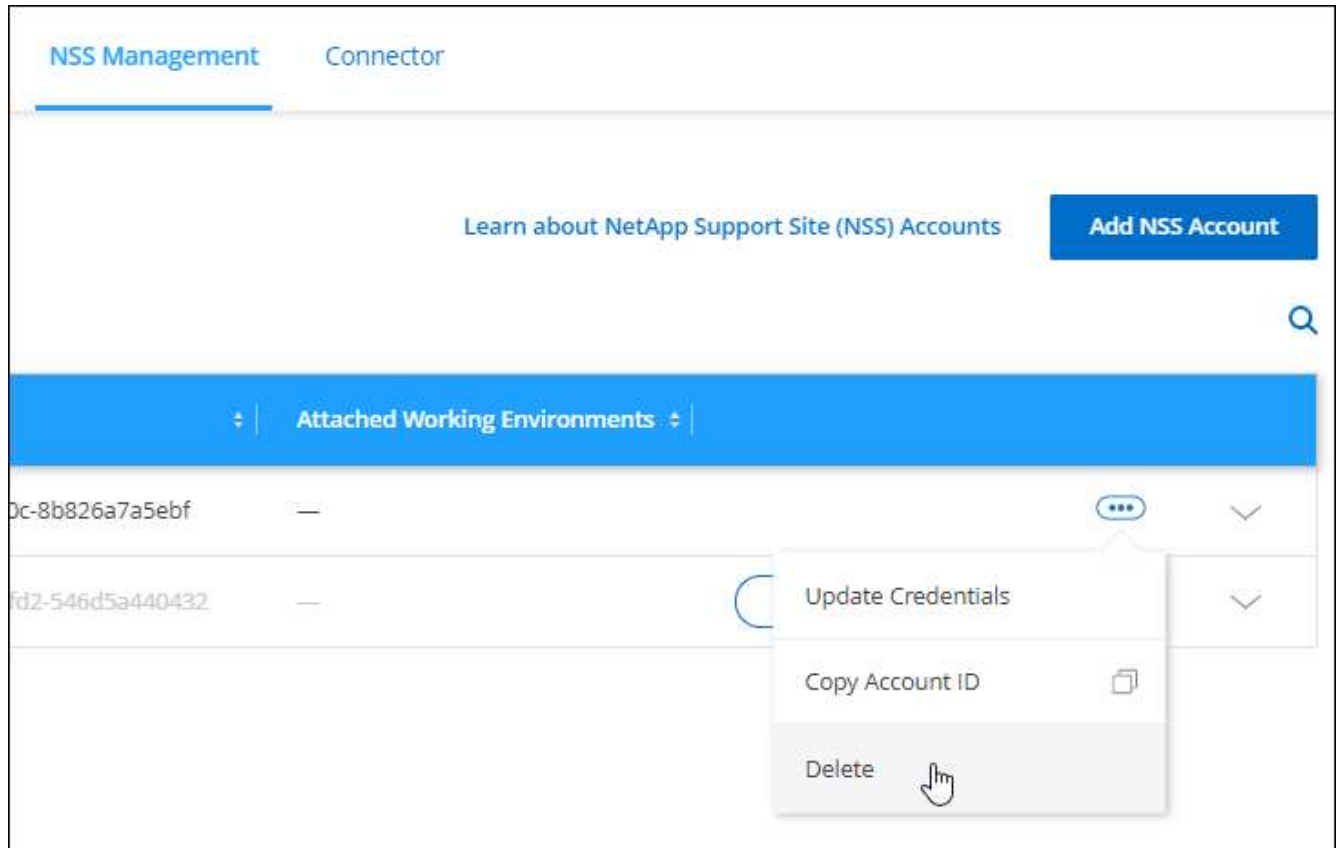
## NSS アカウントを削除します

BlueXPで使用しないNSSアカウントをすべて削除します。

Cloud Volumes ONTAP 作業環境に現在関連付けられているアカウントは削除できません。最初に必要なです [それらの作業環境を別の NSS アカウントに接続します](#)。

手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[ヘルプ]アイコンを選択し、\*[サポート]\*を選択します。
2. [NSS Management]\*を選択します。
3. 削除するNSSアカウントのを選択します ... 次に、 \* Delete \* を選択します。



4. [削除]\*を選択して確定します。

## BlueXPログインに関連付けられているクレデンシャルを管理します

BlueXPで実行した操作によっては、ONTAP クレデンシャルとNetApp Support Site (NSS) クレデンシャルがBlueXPユーザログインに関連付けられている場合があります。関連付けたクレデンシャルは、BlueXPで表示および管理できます。たとえば、これらのクレデンシャルのパスワードを変更した場合は、BlueXPでパスワードを更新する必要があります。

### ONTAP クレデンシャル

コネクタを使用せずにオンプレミスのONTAP クラスタを直接検出すると、クラスタのONTAP クレデンシャルを入力するように求められます。これらのクレデンシャルはユーザレベルで管理されます。つまり、ログインした他のユーザはこれらのクレデンシャルを表示できません。

## NSSクレデンシャル

BlueXPログインに関連付けられたNSSクレデンシャルにより、サポート登録、ケース管理、Digital Advisorへのアクセスが可能になります。

- [サポート]>[リソース]\*にアクセスしてサポートに登録すると、NSSクレデンシャルをBlueXPログインに関連付けるように求められます。

この操作により、BlueXPアカウントがサポート用に登録され、サポート使用権がアクティブ化されます。サポートに登録してサポート利用資格をアクティブ化するには、BlueXPアカウント内の1人のユーザだけがNetApp Support SiteアカウントをBlueXPログインに関連付ける必要があります。これが完了すると、\*リソース\*ページにアカウントがサポートに登録されたことが表示されます。

### "サポートに登録する方法について説明します"

- [サポート]>[ケース管理]\*にアクセスすると、NSSクレデンシャルを入力するように求められます（まだ入力していない場合）。このページでは、NSSアカウントと会社に関連付けられたサポートケースを作成および管理できます。
- BlueXPでDigital Advisorにアクセスすると、NSS資格情報を入力してDigital Advisorにログインするように求められます。

BlueXPログインに関連付けられているNSSアカウントについては、次の点に注意してください。

- アカウントはユーザレベルで管理されるため、他のユーザがログインしても表示できません。
- Digital Advisorとサポートケース管理に関連付けることができるNSSアカウントは、ユーザごとに1つだけです。
- NetApp Support SiteアカウントをCloud Volumes ONTAP作業環境に関連付ける場合は、メンバーであるBlueXPアカウントに追加されたNSSアカウントからのみ選択できます。

NSSアカウントレベルのクレデンシャルは、BlueXPログインに関連付けられたNSSアカウントとは異なります。NSSアカウントレベルのクレデンシャルを使用して、お客様所有のライセンスを使用（BYOL）した場合、PAYGOシステムに登録した場合、Cloud Volumes ONTAPソフトウェアをアップグレードした場合にCloud Volumes ONTAPを導入できます。

"BlueXPアカウントでNSSクレデンシャルを使用する方法の詳細については、こちらをご覧ください"。

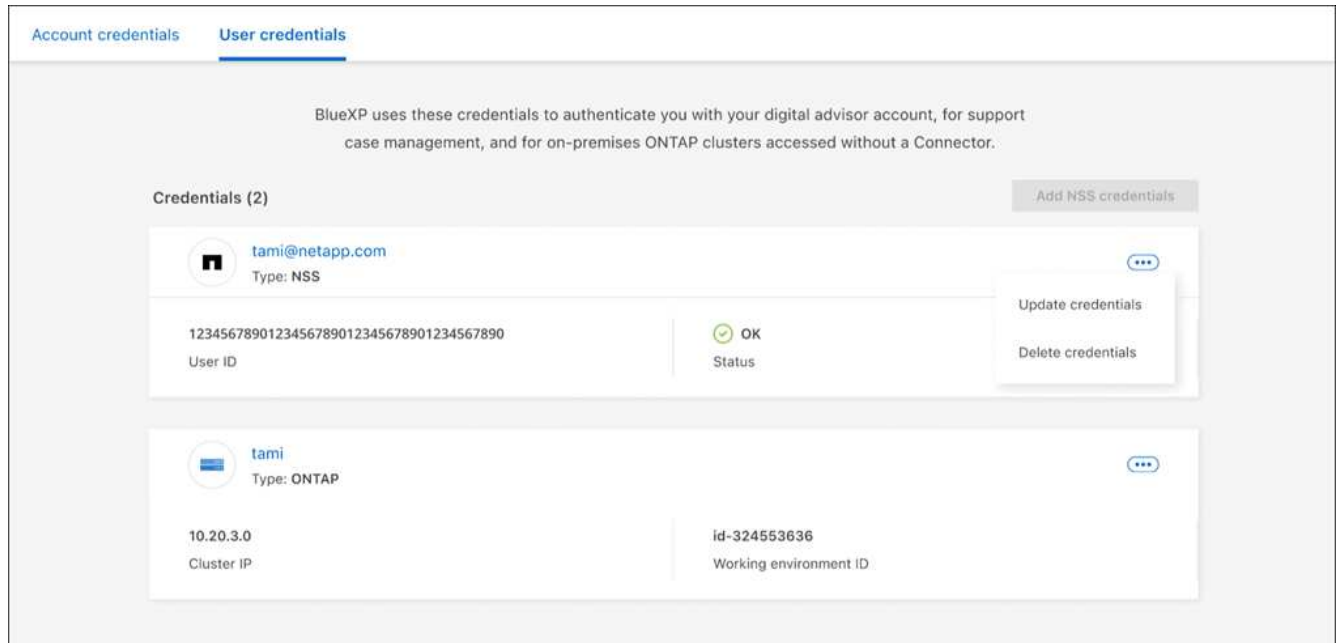
## ユーザクレデンシャルを管理します

ユーザ名とパスワードを更新するか、クレデンシャルを削除して、ユーザクレデンシャルを管理します。

### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。
2. [ユーザクレデンシャル]\*を選択します。
3. まだユーザクレデンシャルがない場合は、\*[NSSクレデンシャルの追加]\*を選択してNetApp Support Siteアカウントを追加できます。
4. 次のオプションを選択して既存のクレデンシャルを管理します。
  - 資格情報の更新：アカウントのユーザ名とパスワードを更新します。

- クレデンシャルを削除：BlueXPユーザアカウントに関連付けられているアカウントを削除します。



と[Delete credentials]を選択する機能を示すスクリーンショット"]

## 結果

クレデンシャルが更新されます。変更は、ONTAP クラスタ、デジタルアドバイザー、または[ケース管理]ページにアクセスすると反映されます。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。